せんなんのたからもの
活用のごあんない

平成22年度版

泉南市教育委員会

市内資源発見活用事業に伴う　せんなんのたからもの活用のごあんない　平成22年度版

2010年4月発行　編集・発行　泉南市教育委員会生涯学習課　〒590-0592　大阪府泉南市樽井1-1-1

はじめに

今日、魅力ある地域が多数あります。魅力を感じるのは、その地域の住民であったり地域外の人々であったりしますが、その地域の魅力とはそれぞれの地域内にある何らかの「資源」をうまく「活用」した結果であるとはいえないでしょうか。

たとえば、毎年地域をあげての祭りがあるとします。開催にむけての準備や話し合いを通じて、地域内のまとまりがかたちづくられることでしょう。その祭りが継続され、魅力的な祭りになるとします。次第にその祭りは地域外からの注目を集めるようになり、魅力を感じた外部からの見物客がふえることになります。外部からの見物客、つまり地域外からの注目が集まれば、祭りの主催者である地域の人々は地域への誇りや愛着（魅力）をもつことにつながります。さらにこの地域では、祭りが続く限り地域への誇りや愛着（魅力）が地域の人々の間で共有され続けることでしょう。

祭りとは「地域の資源」であり、毎年継続して開催することは「活用」とも言い換えることができます。地域の資源をうまく活用している例の多くが、「文化財」にその資源を求めています。地域の文化財を活用することは、地域にとってなすべきことのひとつなのかもしれません。

資源の用途や資源としての価値は、固定化されたものではありません。既存の資源でもあらたな活用方法さえみつかれば多様な用途が期待され、これまで不必要だと思っていたものでもあらたな資源としての活用方法が見出されることもあるからです。

それでは、市内にはどのような「資源」があるのか発見してみませんか。発見した資源をどのように「活用」すればよいのか、考えてみませんか。
地域の資源が我々にとってどのように役に立つものなのか、将来にわたって如何に扱うべきなのか、いっしょに考えてみませんか。
決して私たちの意見を押し付けるつもりはありません。この事業をきっかけに、みなさんと共通認識を持つことができればと考えるからです。

泉南市教育委員会

1. 市内資源発見活用（せんなんのたからもの）事業の一環として発行するものです。
2. 本書に掲載されている「せんなんのたからもの」は、一部をのぞき持ち主の方が所有しているものです。
3. 本書は、平成 22 年 3 月 10 日までに応募のあった 372 件をまとめたものです。
4. 本書は、「せんなんのたからもの」の情報をひろく公開することで、本書をご覧になる皆様による主体的な活用を促すことを目的に発行するものです。
5. 本書における「せんなんのたからもの」の分類は、国立民族学博物館翻訳・発行 1988『文化項目分類』を参考にしました。
6. 本書と同様の内容を、泉南市ウェブサイトの 埋蔵文化財センターのページ（http://www.city.sennan.osaka.jp/~maibun/maibun-top.htm）でも公開しています。
7. 本書に掲載されている応募物件について、次の方々からご協力、ご指導を賜りました。記して感謝いたします。
磯部武志さん（大阪府環境農林水産総合研究所）、梅田　徹さん（浜松市楽器博物館）、風間美穂さん・高田雅彦さん・武　修次さん・藤田吉広さん・渡邊克典さん（きしわだ自然資料館）、中井正明さん（なにわことばのつどい）、浜田真義さん（舞鶴市教育委員会）、東原和代さん・宮田克成さん・森　昌俊さん（歴史館いずみさの）

市内資源発見活用（せんなんのたからもの）事業について

1. 目的
   泉南市に関連する文化遺産（広義の文化財＝せんなんのたからもの）の価値を最大化させることです。
2. 目標
   住民と行政が、文化遺産の活用を通して文化財保護の必要性を共有することです。
3. 見込まれる効果
   住民が地域への誇りを持つきっかけを提供することで、市域の活性化が見込まれます。
4. 事業のすすめ方
   本事業は平成17年度から開始しました。現在３つの段階にわけて事業をすすめ、各段階ごとに目標を設定しています。

[段階１　文化財の認識をひろめる]
「せんなんのたからもの」を公募します。「せんなんのたからもの」とは、時代や価値などの基準は設けず、①泉南市に関係するもので、②所有する人が大切だと思い、③活用したいとつよく思うものです。
[目標]
・住民に「せんなんのたからもの（広義の文化財）とは何か？」を考えるきっかけを提供する。
・「せんなんのたからもの」を公開する方法や活用方法について、所有者や利用者の要望を把握する。

[段階２　情報を共有する]
応募のあった「せんなんのたからもの」を随時閲覧可能な状態で公開することで、ひろく活用をうながします。公開する手段は、前段階で把握した所有者や利用者の要望を反映します。
[目標]
・利用者による主体的な活用をうながし、地域の宝としての認識をひろめる。
・利用者の意見をもとに、より具体的な活用形態を把握する。

[段階３　利用者が活用しやすい環境をつくる]
前段階で把握した具体的な活用形態を実現するために、エコミュージアム化など「せんなんのたからもの」を利用者が主体となり活用できる環境づくりをおこないます。
[目標]
・活用をきっかけとした人間関係の構築をうながし、維持発展させる。
・泉南市独自のマイルールを作る。

本書掲載の「せんなんのたからもの」の活用について

1. 本書に掲載されている「せんなんのたからもの」の活用とは、教育・生涯学習・地域活動の素材として、グループや個人が利用することをいい、活用方法は持ち主の承諾さえ得られれば特に制限はありません。
2. くわしくは、泉南市埋蔵文化財センターまでお問い合わせください。

[問合せ先]
泉南市埋蔵文化財センター
〒590-0505 大阪府泉南市信達大苗代（しんだちおのしろ）374-4　電話番号 072-483-6789
メールアドレス maibun@city.sennan.lg.jp

自然

170205　ツツジの老木
樹木
由来する地区　信達牧野（しんだちぼくや）・葛畑（つづらばた）
年代　樹齢 200 年以上（所有者談）

170206　サザンカの老木
樹木
由来する地区　信達牧野・葛畑
年代　樹齢 200 年以上（所有者談）

170207　ウバメカシの老木
樹木
由来する地区　信達牧野・葛畑
年代　樹齢 200 年以上（所有者談）

170208　キンモクセイの老木
樹木
由来する地区　信達牧野・葛畑
年代　樹齢 200 年以上（所有者談）
なぜ宝物？ 持ち主の曽祖父が明治時代に庭に植えたもので、持ち主の方いわく、「樹齢は 200 年を超えるのではないか」とのこと。堀河（ほりご）地区にあった旧宅からわざわざ移植。今も大事にされており、手入れに来る植木職人さんも立派さにびっくりするほど。

171102　バベの木
樹木
由来する地区　男里（おのさと）
年代　樹齢 250 年以上（所有者談）
なぜ宝物？ バベは、ウバメガシの別名。幹の太さは約 1.3m、高さ約 5 m。持ち主によると「今住む家に先祖が植えたものと聞いているので、少なくとも樹齢 250 年以上になるのでは」とのこと。

211401　メダカ
家庭で飼育しているメダカ
由来する地区　新家
年代　現在もスクスク成長中
なぜ宝物？ すっかり見かけなくなったメダカ。持ち主が飼っているうち昨年生まれたものばかりです。「いまや絶滅危惧種になっているものね」と話しているうちに、出展していただくことになったものです。お借りする際、3 つの約束を渡されました。①一日 1 回えさをやってください②量は 30 分～ 1 時間位でなくなる程度です。やりすぎないでください。③水がにごってきたら連絡してください。生き物がデリケートなものであり、飼育するには配慮が必要なようです。同時に、戦後のあらゆる近代化に伴う環境の変化に、多くの生き物がうまく適応できなかった理由もわかるような気がしませんか。

180402　和泉の壷石（つぼいし）
置物。渇鉄鉱（かってっこう）の塊で、空洞がある。
由来する地区　信達岡中
年代　昭和 30 年代に採取
なぜ宝物？ 地区の竹藪でよくみつかったとか。専門家によると泉南地域の大阪層群 (300 万年前の地層) でみられるもので褐鉄鉱ともいいます。古来は医薬品。奈良時代には、舶来の医薬品として光明皇后（こうみょうこうごう）が東大寺・正倉院（しょうそういん）に献納しています。

211001　石や化石のコレクション
化石や鍾乳石など
由来する地区　市外
年代　30 年ほど前から収集
なぜ宝物？ 「めずらしい石がすき」という持ち主。これまでにあつめたうちのひとつです。きっかけは「子どもの頃のあそび」で、近所の畑で土器や石器をあつめていたことだそうです。といっても「歴史好き」にはならなかったそうで、めずらしい石などに興味は移っていったとのこと。いま手元にあるものは、大人になってから、旅先で目に付いた珍しい石を持ち帰ったりするほか、「お前はこんなの好きだろう」と知人が譲ってくれたものなどです。鍾乳石、化石、ネイティブアメリカンの石族など、それぞれに思い出のあるもの。「大事なのは興味関心のきっかけ」と語る持ち主。子どものころの体験があるからこそ、「いまの楽しみ」があるそうです。

210802　和泉の壷石
持ち主が自分で採掘したもの
由来する場所　信達岡中
年代　昭和 30 年代に採集
なぜ宝物？ 「壷石集めがかなりはやった」当時に自分でみつけたもの。きっかけは、知人の家で見かけたから。「不思議な形」に興味を持ち、自分も探しに行くことを決意。形のいいものを目当てに、休日になると掘りに行っていたそうです。「ヤスリで丁寧に磨くといい置物になる」とのこと。「とにかく掘りに行くのが楽しかった」と語る持ち主。たくさんあった壷石も、手元に残るのは 3 個のみだそうです。

180601　ナウマンゾウの化石
紀淡海峡産の大腿骨と臼歯
由来する地区　加太
年代　3-7 万年前

なぜ宝物？ 市域を含む泉南地域は化石の産地として有名。ただし、ナウマンゾウの化石が見つかるのは深い海の底。紀淡海峡で操業する漁船が底引き網でナウマンゾウの化石を引き上げることがあるとか。この化石は、30 年ほど前に持ち主の祖父が知人の漁師から譲り受け、家に持ち帰ったうちのひとつ。「袋いっぱいの化石にびっくりした」と当時高校生だった持ち主の父は記憶しています。その後は実家に保管したままだったのを、一昨年持ち主の父が思い出し息子に進呈。化石に興味を持った息子は、ホンモノの化石をもらった持ち主は大喜び。以後ナウマンゾウや化石のことを熱心に調べ始めたとか。親子で博物館へ出かけることも多くなり、化石がきっかけで親子のふれあう機会もふえたとのことです。

191501　タイマイくん
タイマイの剥製。2 個体あり
由来する地区　和歌山市
年代　不明

なぜ宝物？ かなり以前から家にあるもの。最近になってタイマイとわかり、親子でびっくり。

191502　ふしぎなキノコ
マンネンタケか
由来する地区　史跡海会寺跡広場
年代　平成 17 年採取

なぜ宝物？ 公園の中で子どもが発見。その大きさが気に入り家に持ち帰る。以後 2 年ほどは正体不明のキノコだったが、最近博物館に確認したところマンネンタケの可能性が濃厚に。いまさらながら息子は大喜びしているとのことです。

201203　葉っぱの化石
新家地区の山中で発見
由来する地区　新家
年代　6700 万年前

なぜ宝物？ 1970 年の「万博の年」、新家の山奥で持ち主が発見したもの。「工事現場で削岩機を使って、岩を砕いているとき見つけた」とのこと。「おもろいなあ」と思い、当時の新聞紙に包んで保管しています。専門家によると「和泉層群で見つかる葉の化石としては非常に保存がよく貴重なもの」とのことです。

201901 新家三本松の輪切
枯れた松の幹を輪切りにしたもの
由来する地区　新家
年代　昭和 52 年 3 月 3 日に切り倒す

なぜ宝物？ 新家地区にある、幹が 3 本に分かれた大きな松の切り株。江戸時代、村内のいさかいが解決した記念に植えられたものだとか（『新家村誌』）。三本松を切り倒すことになったのは、松くい虫による立ち枯れ。そのとき持ち帰られた幹を、今も大切に保管している持ち主。ながらく家で保管していたことを、新家歴史研究会の知るところなり、専門家による鑑定の結果、年輪や生育状況などが判明。詳しくは新家歴史研究会により紹介されています（『新家歴研ニュース』2・3 号）。

210801　ヒマラヤの化石
ノジュール
由来する地区　ネパール　年代　30 年ほど前に購入

なぜ宝物？ ノジュールの中にある見事な化石です。登山がライフワークの持ち主が、エベレストのトレッキングに行った時に購入したおみやげです。「ひと目で化石とわかるものを、子どもに見せて欲しい」とご応募いただきました。「もともと化石には興味がなかった」そうですが、登山をしていると化石との接点がいくつもあったとか。よく通った泉南市内や泉佐野市内の山道が、実は化石の産地だったと教えられることがあったからです。「神奈川県から化石を取りに来た」人もおり「遠いところまで取りにくるんだなあ」と感心したそうです。かくいう持ち主も、登山目的で台湾やボルネオ、さらにはアフリカへ行くほどの熱心さ。登山の話になると話はつきません。登山がライフワークになったきっかけは「いろんな人との出会い」。一緒に登山した仲間や、初めてであった人から「いろんな山の魅力を教えてもらった」とか。それがきっかけで、「方々の山に行くことになった」そうです。

ライフヒストリー

170301 『八十歳の年輪』
明治生まれの著者の自叙伝
由来する地区　信達市場
年代　昭和 50 年代まで記憶
なぜ宝物？ 幼少時の生活の様子や、太平洋戦争終戦当日の自身の体験など、川柳でつづられています。

170306 『青春時代の道標』
名言・名句などをもとに道徳感などをまとめた手記
由来する地区　信達市場
年代　昭和末期までの記憶
なぜ宝物？ 名言名句などをもとに、我が子への人生訓がまとめられている。明治時代に生まれた筆者の倫理観がよくわかります。

ことば

180301 むかしの辞書
辞書
由来する地区　男里
年代　文化十年・明治三十三年に発行
なぜ宝物？ 『四聲字林集韻大全』は江戸時代、『いろは字典』は明治時代に出版された字典。持ち主の祖父のもので、「小学 2 年生の頃、いろは字典をつかって字を教えてもらっていた」とのこと。終戦直後の昭和 20 年代、商いを営んでいた大阪市内で空襲にあい、一家で泉南市内に帰って来た頃のこと。当時の人の学習に対する熱心さと、家族への思いやりを感じさせます。

181402 『人に聞いてもわからない知識辞典』
親族呼称などを一覧表にした冊子
由来する地区　信達大苗代
年代　平成 15 年・平成 20 年発行
なぜ宝物？ 「曽祖父のお父さんは何て呼ぶの？」このような、日常のちょっとした疑問を、その都度調べてまとめた持ち主オリジナルの辞典。檀家となっている宗派の系図や数詞など、平成 15 年度版に収録したのは 28 項目。仕事の合間に作成した改訂版も昨年に完成。泉南の郷土料理「じゃこごうこ」のレシピや「ちょうど北京五輪の年なので」とオリンピックの開催地の項目を追加しています。はやくも追加項目を調査中で、目下の課題は「食べずにわかる、旨いかぼちゃの見分け方」。「なかなかの難問」と笑いながら教えてくれました。

211501 『永代雑書』
百科事典みたいなもの。手相や年中行事などがわかる
由来する地区　男里
年代　江戸時代
なぜ宝物？ 持ち主が兄の家を片づけているときに見つけたもの。他のものは「ほかした」が、この本が妙に気になって保管しているそうです。というのも、「眺めているだけで楽しい」からだとか。ページをめくると、昔の百科事典のようです。人相などの占いや、年中行事のようすを絵で紹介しています。丁寧に綴じなおされており、使い込まれた辞書のようです。持ち主がこの本をとても大切にしていたことがわかります。この本は、おそらく今から 220 年ほど前の江戸時代に出版されたもの。多くの人にとって「気になる本」だったからこそ、今ここにあるのかもしれませんね。

210916 葛畑村の高札 - 五傍の掲示
由来する地区　信達葛畑
年代　明治 2 年
なぜ宝物？ 持ち主の家の納屋にあったもの。新家歴史研究会の方々により詳細に調査されているものです。「慶応 4 年（1868）3 月に、太政官が五箇条御誓文と「五榜の掲示」を太政官布告として出しました。旧幕府の高札を撤去し、そのかわりに五種類の高札を建てることを命じました（『新家歴研ニュース』第 83 号より）。

210917　葛畑村の高札 - 太政官布
由来する地区　信達葛畑
年代　明治５年

なぜ宝物？ 新家歴史研究会により詳細に調査されているものです。「火付　盗賊　人殺　贋金づくりをしたものをみつけた場合は捕らえて近くの役所へ差し出すか、訴え出ること。取り調べて事実であったら褒美をくださる。　また、捕らえられるときに怪我をしたり死者が出たらお救い金をくださる。訴え出た者が取り調べのために役所へ呼び出されたときは、それ相応の手当てをくださるのでありのまま話すこと。　もし隠しておいて後日よそから判明したら罪になる。太政官　明治五年三月（『新家歴研ニュース』第 83 号より）」とあります。

コミュニケーション

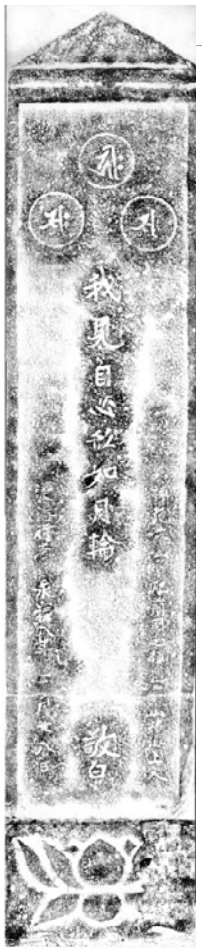
180101　５球スーパーラヂオ
真空管ラジオ
由来する地区　男里
年代　昭和 20 年代末に製造
（現在も使用可）

なぜ宝物？ 昭和 20 年代に製造された、真空管ラジオ。商品名の由来は真空管が５つ付いていることから。昭和 20 年代、家族そろってラジオ番組を聴いた思い出深い品とのこと。当時放送されていたラジオドラマは大変な人気で、放送時間には「銭湯の客がいなくなる」ほどだったとか。家族や近所の人たちがこのラジオの前に集まり人気番組を楽しんでいた様子がうかがえます。

200401　缶テレ
携帯用のテレビ
由来する地区　信達大苗代
年代　平成６年に入手

なぜ宝物？ くじ運がよく「自転車やテレビも当たった」ことがある持ち主。退院直後に立ち寄ったスーパーのくじ引きで当たったもの。小型のテレビですが「とても重宝した」とのこと。自宅療養のとき、枕元でいつでもテレビが見れたからです。「おかあちゃんに捨てられないか心配」と語る持ち主が元気に笑いながら教えてくれました。

過去の記録



170601　渡海上人（とかいしょうにん）碑の拓本
碑文の拓本
由来する地区　信達岡中
年代　1990 年頃に記録

なぜ宝物？ 林昌寺境内にある石碑の拓本。渡海上人碑とは、補陀落渡海（ふだらくとかい）碑ともいい、わずかな食料を積んだ船で観音菩薩の住む補陀落山めざし船出する捨身行「補陀落渡海」があったことを示す石碑のこと。現在確認されている数は少なく、全国的にも珍しい石碑。この拓本自体石碑以上に貴重なもの。というのも、今では風化して不鮮明な文字も、この拓本では読取れるから。持ち主の方が「補陀落渡海について根井浄さんの本が詳しいですよ」と教えてくれました。

171101　酬梅田五一（ごいち）君清徳碑
顕彰碑
由来する地区　男里
年代　大正５（1916）年建立

なぜ宝物？ 碑に刻まれている名は持ち主の祖父。当時の文書によると、氏は大正元年に織布工場を設立し、地域の雇用を確保した人。石碑建立の発起人は地区の人々。工場設立によって雇用を創出してもらった恩義がきっかけだとか。地域に及ぼした恩に酬いる気持ちから、工場設立５年目にしてこの石碑が建てられました。

170101　故大田儀助（おおたぎすけ）君之碑
顕彰碑
由来する地区　岡田
年代　明治 30（1898）年建立

なぜ宝物？ 酒の小売業「大田商店」を営んでいた持ち主の曽祖父が、販路拡大などの功績により、和歌山市酒造組合に建ててもらったもの。当時泉南では、酒といえば「灘」、ではなく「和歌山」だったのかもしれません。

石碑のまわりをかこむ柵の根元をよく見ると、鉄柱の切断面が残ります。本来あった鉄柵の跡で、切り取られた鉄柵は戦時中の昭和 10 年代後半に軍需用に供出されたとのことです。

211002　金庚信（キムコシン）将軍墓の神像拓本
由来する地区　韓国
年代　20年ほど前の拓本
なぜ宝物？ 金庚信は7世紀に活躍した新羅の将軍。その墓は、墳丘裾の切り石に彫られた十二支の神像が有名です。この拓本は持ち主が20年ほど前に旅行で立ち寄った際、「露店で販売していたもの」だとか。自分の干支が欲しかったが「今は未しかない」といわれ購入したものです。転居がおおく、「気がついたら傷んでいた」そうですが、「貴重な記録では」とのことです。

190402　堀河（ほりご）橋の思い出
橋にまつわる思い出
由来する地区　信達葛畑（つづらばた）
年代　昭和40年代以前
なぜ宝物？ ダムができる前、いつもこの橋を通っていた堀河地区にすんでいた方の、なつかしいふるさとの記憶です。

210401　馬のくらの思い出
由来する地区　堀河（信達葛畑）
年代　不明
なぜ宝物？ 堀河ダムの奥に浮かぶ島。ダムができる以前は、堀河地区の集落の目印になる山でした。馬のくらと言う呼び名は、「稜線が馬の鞍に似ている」ことに由来します。ダムができる以前、ここに住んでいた堀河地区の人たちが親しみを込めてつけた名前です。当時、堀河地区へは根来街道沿いから堀河橋をわたり、「すぎたに」と呼ばれるうっそうとした山道を登ります。谷あいを進むとやがて見えてくるのがこの「馬のくら」。「おおまがり」と呼ばれる急カーブを通り、山の反対側に出ると、平坦な土地に堀河地区の集落がありました。当時は「子どもの絶好の遊び場」で、「マツタケもよくとれた」山だったとか。今でもこの山を見ると「家に帰ってきた」と感じる、ふるさとの里山です。

170303『故郷今昔傳承録』
信達市場における年中行事の記録
由来する地区　信達市場（しんだち）
年代　明治時代末以降の記憶
なぜ宝物？ 明治時代末期における信達市場地区の年中行事などが詳しく書かれています。

170304　『暁の明星』
信達村（大苗代・市場・牧野）の小字や公共施設などの所在の記録
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期の記憶
なぜ宝物？ 昭和初期の信達町内（信達大苗代・市場・牧野）の小字名や、警察署など公共施設の所在が記されています。

170302　『明治の末期』
信達市場の屋号（やごう）、共有地などを記した記録
由来する地区　信達市場
年代　明治時代末頃の記憶
なぜ宝物？ 明治時代末期の信達市場地区における各戸の屋号や、共有地内の詳しい地図と地名が記されています。

170305　『花は散り人は死ぬ』
信達市場の年中行事などをまとめた記録
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期の記憶
なぜ宝物？ 昭和初期まで信達市場の街道沿いで開催されていた「歳の市」の様子が詳しく記されています。

200501　『吉見（よしみ）紡績工場現況』
樽井工場（現東洋クロス）の写真多数掲載
由来する地区　樽井
年代　大正13年5月発行
なぜ宝物？ 大正時代、市内最大の規模を誇った「樽井紡（たるいぼう）」の様子がよくわかります。

撮影場所　馬場
年代　昭和 10 年代か
なぜ宝物？ 山之井（やまのい）中学校の校庭でのひとコマ。もんぺ姿に鉢巻をしめた生徒たち。バレーボールでもしているのでしょうか。山之井中学校は、市立図書館の山側にありました。もとあった中部青年学校の建物を利用し昭和 23 年に開校。昭和 33 年に信達中学校と統合し泉南中学校となります。

撮影場所　信達市場
年代　昭和 10 年代か
なぜ宝物？ 信達市場にあった「砂川遊園」でとられたもの。隣接する「砂川奇勝」とあわせ、多くの人が訪れた観光名所のひとつ。その最寄り駅（現在の和泉砂川駅）に、「砂川」の文字がついたのもこの頃でした。

撮影場所　新家
年代　昭和 10 年代か
なぜ宝物？ 当時人気のハイキングコースだったお菊山の頂上でとられたもの。頂上で人々を待つのは、「髪結いの松」と呼ばれる松の大木と、堀河地区の人々が売るラムネだったそうです。木陰でベンチに座りラムネを飲む男女の目には、砂川奇勝の見事な景観がひろがっていたのかも知れませんね。

撮影場所　信達牧野
年代　昭和 10 年代か
なぜ宝物？ 信達尋常高等小学校の校舎。中央にある一番背の高い建物が講堂で、その他が教室のある校舎。当時、学校は現在の信達幼稚園の敷地にありました。後に信達国民学校、信達小学校、信達第一小学校と校名が変わり、昭和 45 年に信達小学校として現在の場所に移転します。

撮影場所　信達市場か
年代　昭和 10 年代後半か
なぜ宝物？ 大勢の人が谷間を開墾する前で、軍服らしき服を着た男性がこちらを向いています。おばの持っていた写真で、詳しいことはよくわからないそうですが、「おそらく砂川のあたりで、戦争中のものでは？」とのことです。

撮影場所　信達童子畑（わらずばた）
年代　昭和 20 年代
なぜ宝物？ 信達童子畑の里山でとられたもの。鍋の中身はとれたての松茸。当時、泉南は松茸山でも有名で、豊作不作が新聞記事になるほど。人々は毎年秋になると松茸狩りにでかけ、鍋を囲んで秋の休日を楽しんでいたようです。

170216　昭和初期のアルバム
古い写真
撮影場所　信達市場
年代　昭和初期の記録
持ち主の母のもの。

190401　昭和 40 年代の結納
13 品の結納を並べた様子
撮影場所　信達葛畑
年代　昭和 40 年代
なぜ宝物？ これから嫁宅へ納めに行く前に「記念に」と婿宅で撮られたもの。堀河地区のとある家で撮影されたもので、むかしながらの結納のようすがよくわかる写真です。

190501　泉南郡組合立信達中学校
校舎の全景
撮影場所　信達市場
年代　昭和 20 年代
なぜ宝物？ 現在の砂川（すながわ）公園団地（砂川遊園地の跡地）にありました。当時、周辺には砂川遊園地の遊具などの施設が残り、背後には砂川奇勝があるので「遊び場には困らなかった」とのこと。モダンな校舎で 3 箇所もグランドを持つ「自慢の母校」。昭和 23 年に設立、昭和 33 年に山之井中学校と統合し、泉南中学校となります。

190502 信達国民学校のクラス写真
現存する忠魂碑を背景に撮影
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 21 年頃

なぜ宝物？ 信達国民学校のクラス写真。現在の信達幼稚園敷地にありました。写真後ろの石碑は、今も幼稚園の敷地内に残っています。この写真がきっかけで、校舎の屋根裏で遊んだことや昭和 22 年になるまで運動会がなかったことなど、友人たちとの思い出話に花が咲いたとのこと。なかでも「二宮金次郎があったかどうか？」は人によって記憶は様々。結論は出てませんが、現在の信達小学校には「昭和 14 年」と銘がある二宮金次郎像が今も残ります。

190604　信達国民学校の集団登校
校門前に集合する様子を撮影
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 19 年

なぜ宝物？ 信達国民学校の登校風景。持ち主自身も戦時中に集団登校したことがあり、その様子を教えてくれました。校区が東西に細長いので、東西ふた手のグループに別れて登校。東側は、まず大苗代地区の児童が広場に集まり次第出発。その行列に、集合場所に集まった市場の生徒が加わり学校へ向かいます。西側も、岡中の行列に牧野地区が加わり学校へ。通学ルートは大名行列も通った紀州（熊野）街道沿いでした。最後に、東西いずれのグループとも校門前にそろったら、ラッパなどを吹きならし校門をくぐるそうです。

190503 泉南郡組合立信達中学校の卒業写真
二宮金次郎像を背景に撮影
撮影場所　信達市場
年代　昭和 27 年

なぜ宝物？ 組合立信達中学校の卒業写真。当時、信達町と新家村の子ども達が通っていました。当時は学校を囲む塀もなく、新家から通学する生徒は学校東側のグランドを通る「最短ルート」で通学していたこと、下校途中には砂川遊園地跡地にのこる遊具でよく遊んだことなど、持ち主の思い出話はつきません。目下のなぞは、写真奥の二宮金次郎像。「ぼくらの在学中は首がとれていたで」との友人の言葉がきっかけで、現在調査中だそうです。

190603　信達町役場で仕事する人
役場内で撮影
撮影場所　信達市場
年代　昭和 17 年頃

なぜ宝物？ 信達町役場の建物内で撮られた写真です。役場は、現在の信達市場老人集会所にありました。持ち主の記憶によると、役場の建物は「普通の家と変わりなかった」そうです。仕事をしている男性は、持ち主の父。いつも着物を着て役場に出勤していたことや、父の着物を洗い伸子張りを手伝ったこと、家が近くだったのになぜか毎日弁当を届けに行ってたことなど、父の思い出をひも解く一枚だそうです。

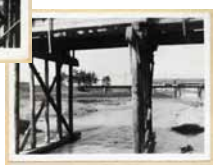
190601　仲良し友達
幼馴染と持ち主の自宅前で撮影
撮影場所　信達市場
年代　昭和 15 年頃

なぜ宝物？ 「名づけて仲良し友達、なによりもこの写真は私達の言葉です」と持ち主は話してくれました。馬乗りや鬼ごっこをしたり、自然のなかを走り回ったり、けんかをしたりした楽しい思い出。子守りのときは尋春橋から電車を眺め「この電車に乗ればどこまでいけるのだろうか」といつも想像していたことや、この写真を撮影してくれた大阪市内にすむ「ハイカラ」なおじさんの話など。様々な「言葉」が心の中をよぎるそうです。

190602　新家三本松
虫害により切り倒す直前に撮影
撮影場所　新家
年代　昭和 52 年 3 月 3 日

なぜ宝物？ 「新家の三本松」とは江戸時代、新家の村々のいさかいが解決した記念にと植えられたものとされます。写真は、当時区長をしていた持ち主が、「三本松」を切り倒す直前に「記念に」と撮影したもの。地区にゆかりの深い三本松を、切り倒すきっかけになったのは松くい虫。当時泉南でも大発生し、この三本松も立ち枯れに。区長をはじめ住民で相談した結果、切り倒すことになったものの、地区の人たちは三本松を切り倒すのが惜しく、切り株を家に持ち帰った人もいたほど。今でも、その切り株は残っており、地区の人々に大切にされています。

190701　昭和橋の架け替え工事
工事の様子を撮影
撮影場所　男里
年代　昭和 39 年



なぜ宝物？ 持ち主によると、昭和橋の写真ではないかとのこと。昭和橋は、男里川にかかる橋のうち海側から数えて 3 本目、南海電鉄と旧国道 26 号線の間にかかる橋。この写真は、それまで木製だった橋をコンクリート製のものに架け替えたときの写真とのことです。

190702　雄信（おのしん）小学校の入学写真
旧校舎を背景に撮影
撮影場所　男里
年代　昭和 27 年 4 月
なぜ宝物？ 雄信小学校の入学式のときに撮影されたもの。写真左手の瓦葺建物は職員室。そこから伸びるトタン屋根の渡り廊下は、講堂へつながっていました。

190703　泉南中学校の創立記念絵葉書
カラー写真を用いた絵葉書
撮影場所　樽井
年代　昭和 34 年発行
なぜ宝物？ 『泉南市史』によると「当時としては府下随一の計画ともいわれた」新築の中学校。泉南町発足すぐに町立山之井（やまのい）中学校と、町立信達中学校を統合したもの。写真は創立記念の絵はがき。多くの人々の期待がうかがい知れます。

190704　砂川奇勝（きしょう）での記念写真
高校生数人が奇勝を背景に撮影
撮影場所　信達市場
年代　昭和 36 年

190705　砂川遊園地跡にのこるブランコ
ブランコで遊ぶ高校生を撮影
撮影場所　信達市場
年代　昭和 36 年

なぜ宝物？ 遊具で楽しげに遊ぶ高校生。砂川遊園地の跡地に残る遊具や、砂川奇勝で撮影された写真。遊園地敷地内には、昭和 40 年代に住宅地として開発されるまで、遊具などの施設が残り、往時の雰囲気を色濃く残していたようです。

190706　砂川遊園地跡にのこる飛行機
飛行機形の遊具を背景に撮影
撮影場所　信達市場
年代　昭和 36 年

190707　昭和 30 年代の砂川奇勝
奇勝遠景
撮影場所　信達市場
年代　昭和 36 年

190901　信達尋常高等小学校
卒業記念写真帳
卒業アルバム
撮影場所　信達牧野
年代　大正 12 年 3 月
なぜ宝物？ 信達尋常高等小学校の『卒業記念写真帳』。持ち主の父のもの。父から聞かされた話で覚えているのは、「日差しがきついときに袴をカーテンがわりにつるしていた」ことぐらい。なので「女生徒の多くがなぜ掌をすそに隠しているのか？」「みんな袴姿だが体操着などはあったのか？」など、昭和 10 年代生まれの持ち主兄弟にとって、父の卒業アルバムは謎多きものだそうです。

190902　市場稲荷神社での神楽
壇前で撮影
撮影場所　信達市場
年代　昭和 15 年か
なぜ宝物？ 昭和 15 年、紀元二千六百年を記念し日本各地で記念行事が行われました。その一環で行われた「浦安の舞」を記念して撮影したものです。この舞は、1 週間続いたそうです。

190903　信達町役場の収入役室
収入役室を撮影
撮影場所　信達市場
年代　昭和 17 年頃
なぜ宝物？ 信達町役場の写真です。役場は、現在の信達市場老人集会所にありました。役場の建物の概観は、瓦葺で「普通の家と変わりなかった」そうです。

190801　ジェーン台風の被害
被災した工場の様子を撮影
撮影場所　樽井
年代　昭和 25 年前後
なぜ宝物？ 昭和 25 年 9 月 3 日、泉州南部にジェーン台風が接近。持ち主の父が経営する工場は、建物すべてが倒壊。寄宿舎の屋根のスレートは 100m ほど離れた民家の壁に突き刺さっていたそうです。後片付けに数ヶ月を要したとのことですが、付近で被害にあったのは持ち主の工場のみだったとのこと。写真は被害にあう前と、その直後にとられたもの。「人災がなくてよかったと思う一方、台風の威力を思い知らされた」そうです。

190904 信達尋常高等小学校の卒業記念写真
校舎を背景に撮影
撮影場所　信達牧野
年代　大正時代

なぜ宝物？ 持ち主のおじのもの。うち1枚は「大正11年の第十四回卒業生記念」写真。女生徒の大半が掌をすそに隠しているのを見て、江戸時代生まれの持ち主の祖母も、同じような格好で写真に写っていることを思い出したとか。その後、樋口一葉も同じ格好をして写真に写っているのを発見。「当時のマナーだったんですかね」と持ち主の姉は語ってくれました。

190905 信達尋常高等小学校の記念写真
校舎を背景に撮影　撮影場所　信達牧野
年代　大正時代

190906　御大典を祝う
仮装行列の様子
撮影場所　信達市場
年代　昭和3年か

なぜ宝物？ 「ごたいていんや　ごたいてんや　おめでたや」。持ち主のおばが記憶する歌です。「ごたいてん（御大典）」とは天皇即位の儀式。写真は、おそらく昭和のときのもの。昭和3年11月、信達市場の街道沿いで人々が歌いながら踊りながら仮装行列でお祝いしたのでしょう。

191002　砂川駅の桜　線路沿いの桜並木
撮影場所　信達牧野
年代 昭和17年4月4日
「是以上咲けるものかと さくら咲き」

なぜ宝物？ 撮影者が詠んだ俳句が、写真の裏面に記されています。

191010 砂川遊園地の飛行船塔
遊園地内にあった遊具
撮影場所　信達市場
年代　昭和10年代か

191004　入野池の展望台
入野池の岸辺に設置された展望台
撮影場所　信達牧野
年代　昭和10年代か

なぜ宝物？ 当時和泉砂川駅南側の丘陵は、とてもにぎやか。別荘や料亭があり、それらを抜けて砂川奇勝へと向かう道沿いの池は、写真の展望台のほか、ボート乗り場や菖蒲が植えられていたそうです。

191005　中之池のボート
池に浮かぶ貸しボート
撮影場所　信達市場
年代　昭和10年代か

なぜ宝物？ ボート遊びでにぎわう中之池は、地元の子どもたちにとっても絶好の遊び場。料金は1時間で30銭。手が豆だらけになるほどボートで遊んだとか。夜中にこっそりボートに乗ったこと、カラス貝をバケツいっぱい採って帰ったこと、写真右に写る松の木から池に飛び込んで遊ぶ青年など、話は尽きません。

191006 砂川遊園地のモンキーハウス
遊園地内のサル山
撮影場所　信達市場
年代　昭和10年代か

191007 砂川遊園地のボート池
遊園地内にあったボート池
撮影場所　信達市場
年代　昭和10年代か

191009 砂川遊園地のボート池
遊園地内にあったボート池
撮影場所　信達市場
年代　昭和10年代か

191008 砂川遊園地のボート池
遊園地内にあったボート池
撮影場所　信達市場
年代　昭和10年代か

191001　砂川奇勝と砂川遊園地
遊園地と奇勝の様子を撮影したパノラマ写真
撮影場所　信達市場　年代　昭和10年頃か

なぜ宝物？ 高倉山付近から大阪湾をのぞむ風景。遠くに見える山並みは淡路島でしょうか。今同じアングルで写真を撮れば、手前には住宅地がひろがり、遠く関西国際空港が見渡せます。この写真の持ち主は、子どもながらにカメラで近所の風景などを撮影していたとか。現像や焼付けを自分ですることもあったそうで、「かなりの枚数の写真を撮影した」とのこと。「見晴らしのよい風景を写真にしたい」と工夫をかさねた結果の作品で、3枚の写真をかさねて撮影し、ノリで貼り付けたもの。「よく考えついたものだ」とおじさんたちにほめられたことを今でもうれしそうに話してくれました。

191011 砂川奇勝
奇勝遠景
撮影場所　信達市場
年代　昭和 10 年代か

191012 砂川奇勝と料理屋
遊園地側から撮影か
撮影場所　信達市場
年代　昭和 10 年代か

なぜ宝物？ 砂川奇勝と砂川遊園地の間の道にあった料亭でしょうか。看板には「温泉」などの文字がみえます。

191013 砂川周辺の丘陵
おそらく砂川周辺のもの
撮影場所　信達市場
年代　昭和 10 年代か

なぜ宝物？ 看板には、不動産会社の名前らしき文字が見えます。砂川遊園地建設をきっかけに、駅周辺はちょっとした開発ブームだったのかも。

191024　兵隊さんの運動会　パン食い競争か
撮影場所　不明　年代　昭和 10 年代か

なぜ宝物？ 白い服を着ているのは傷病兵。「パンくい競争」でしょうか。和やかな雰囲気の 1 枚です。

191025　戦時中の女のひと
もんぺ姿の集合写真
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

なぜ宝物？ もんぺ姿での明るい笑顔が印象的です。

191026　梅の花
梅の花を接写
撮影場所　市内
年代　昭和初期か

191027　ボートから
ボートから山並みを撮影
撮影場所　中之池
年代　昭和 10 年代

191015　おんどりの大鳥居
交差点南側に設置していた頃のもの
撮影場所 信達牧野
年代 昭和 17 年頃か

191014　おんどりの大鳥居
交差点南側に設置していた頃のもの
撮影場所 信達牧野
年代 昭和 17 年頃か

なぜ宝物？ 「大鳥居（おんどり）」の交差点南側に、道路をまたいで鳥居があった頃の写真。鳥居が現在の場所に移ったのは、昭和 40 年代のこと。撮影された方によると、移設のきっかけは通行するダンプカーの振動で、台座ごと崩れたため。ちょうど交差点近くの親戚宅に居たときに鳥居が崩れたそうで「大きな音にびっくりした」と教えてくれました。

191016　戦時中の防火訓練
信達牧野で実施されたものか
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

191017　戦時中の防火訓練
信達牧野で実施されたものか
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

191018　戦時中の防火訓練
信達牧野で実施されたものか
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

191019　戦時中の防火訓練
信達牧野で実施されたものか
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

191022　戦時中の防火訓練
信達牧野で実施されたものか
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

191023　戦時中の防火訓練
信達牧野で実施されたものか
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

191020　戦時中の防火訓練
信達牧野で実施されたものか
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

191021　戦時中の防火訓練
信達牧野で実施されたものか
撮影場所　信達牧野
年代　昭和 17 年頃か

なぜ宝物？ 信達牧野の紀州（熊野）街道沿いで撮影された写真です。撮影された方によると、戦時中の防火訓練を撮影したものではとのことです。

191028　天皇陛下下賜の品
4品（「ハクセンコ」・包帯・タバコ・不明）
撮影場所　不明
年代　昭和初期か
なぜ宝物？ 知人からもらった写真。「誰がどのようなきっかけでもらったのかよくわからない」とのこと。

191104　おじの出征
持ち主の自宅前で撮影
撮影場所　中小路（なごうじ）
年代 昭和 16 年 4 月 15 日

191102　種河（たねかわ）神社での結婚式
拝殿前での集合写真
撮影場所　新家（しんげ）
年代　昭和 14 年 11 月 18 日
なぜ宝物？ タキシード姿の新郎に、着物姿の新婦。70 年近く前の写真ですが、今と変わらぬような気がしませんか。

191103　風吹峠を越えて
白浜への新婚旅行途中の写真
撮影場所　市内
年代　昭和 14 年か
なぜ宝物？ 白浜への新婚旅行でのひとコマ。歩いて風吹峠をこえるときに撮影されたもの。

191105　子守ふごの赤ちゃん
子守ふごに入る赤ちゃん
撮影場所　中小路
年代　昭和 17 年 1 月 7 日
なぜ宝物？ 昭和初期に購入したもので、「親子 2 代にわたりお世話になった」そうです。子守ふごは、保温性と通気性がよく丈夫。20 年ほど前、末っ子が藁をちぎっては口に入れるのでやむなくお役ごめんとなったそうです。

191106　戦前の乳母車
乳母車に入る赤ちゃん
撮影場所　不明
年代　昭和 17 年 4 月 29 日
なぜ宝物？ 伝統的な子守ふごが使われていた当時、乳母車も活躍していたようです。今のベビーカーより大きく開放的なので、赤ちゃんもにこやかなような気がします。

191301　昭和 26 年頃の砂川奇勝（すながわきしょう）　砂川奇勝の写真。二枚継ぎのパノラマ
撮影場所　信達（しんだち）市場　年代　昭和 26 年頃
なぜ宝物？ 持ち主「自慢の一枚」で、砂川奇勝の景観がわかる写真。写真が趣味の持ち主も、当時は「あえて撮ろうとは思わなかった」とか。子どもの頃から「砂山」と呼び親しんだ遊び場のひとつで、「べつに珍しいものとも思わなかった」ためです。「砂山」も現在はわずかに残るのみですが、砂川公園ですべり台を背に高倉山方面を眺めると、目の前に写真と同じ小山の一部が確認できます。

191303　秋のおいけ
入野（いりの）池の写真
撮影場所　入野池
年代　昭和 38 年頃
なぜ宝物？ 入野池の東側から撮影したもの。「おいけ」とは入野池のこと。「小さいときからの呼び名」で、大きい池がなまって「おいけ」になったのではないかとのことです。

191302　昭和 38 年頃の砂川奇勝
砂川奇勝の写真
撮影場所　信達市場
年代　昭和 38 年頃

なぜ宝物？ 市外に住む会社の同僚を招き、砂川奇勝でピクニックや月見をすると、「とても好評だった」そうです。大学生が砂川奇勝のことを調べに来たときは、熱心に質問する姿に感激し、現地を案内してまわったそうです。

191701　新家（しんげ）国民学校の写真

校門から撮影した写真

撮影場所　新家

年代　昭和初期か

なぜ宝物？ 写真右側に写る校舎は、入学したての1年生の教室。校舎の奥には、運動場がひろがります。持ち主が入学した当初は「戦争の真っ最中」。毎朝の登校は、上級生を先頭に一列に並んでの集団登校。この頃、泉南市内でも艦載機による空襲がたびたびあったためです。空襲を知らせる警報が鳴り響いた場合は、防空頭巾をかぶり、授業を中断して集団で下校。「警報が鳴ると家に帰れるのでうれしかった」と子どもながらに思っていたそうです。

200102　大正時代の男（おの）神社　拝殿前での写真

撮影場所　男里（おのさと）　年代　大正9年撮影

なぜ宝物？ 雄信達（おのしんだち）村での国勢調査の記念に撮影されたもの。当時の村長や収入役、宮司さんや巡査が並びます。

190306　大正12年の雄信達尋常高等小学校

卒業紀念写真帳

テニスをする姿等

撮影場所　男里

年代　大正12年

200101　大正14年の樽井の砂浜

岸和田中学校生の記念写真

撮影場所　樽井

年代　大正14年撮影

なぜ宝物？ 当時樽井の浜辺には、松林ときれいな砂浜がひろがっていたそうです。そばには料亭もあり、松林で弁当をひろげる家族づれなど、行楽客でにぎわっていたようです。ちなみにこの写真の撮影場所は、「たぶん自動車教習所北側」ではないかとのこと。ちなみに昭和20年代生まれの持ち主にとって、夏の遊び場といえばこの浜辺。「この松の根元に服を脱ぎ捨て、フンドシいっちょう」で海に飛び込んでいたとか。当時は海がとてもきれいで、泳ぎながら海底をのぞくと「きれいな砂の上を泳ぐガッチョなどの姿が見えたほど」。浜辺は遠浅で、沖合いには「いちのせ」「にのせ」と呼ばれる背の立つ浅瀬があり、いつも友だちと「どこまで泳げるか競い合った」とのこと。「にのせ」まで泳げることを目標に、毎年夏が来るのを楽しみにしていたそうです。

190307　昭和10年の雄信達尋常高等小学校

卒業紀念写真帳

旧校舎や校門など

撮影場所　男里

年代　昭和10年

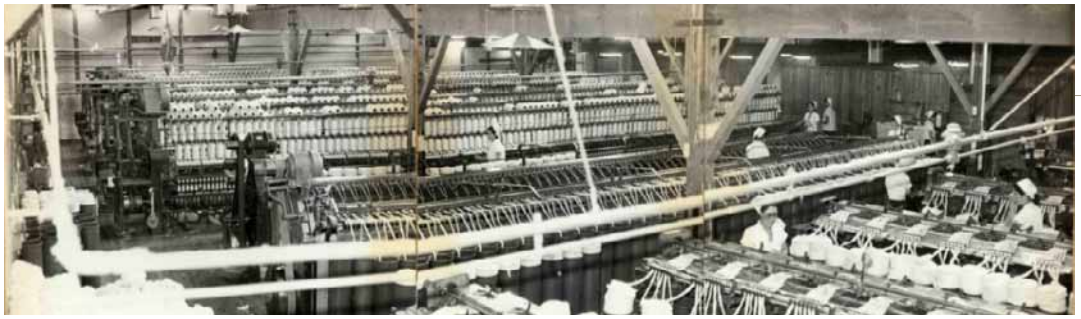
なぜ宝物？ 立派な校門をくぐると、応接室のある校舎があったこと。中庭には、大きな槙があり井戸の水がおいしかったこと。恩師や同級生との思い出、当時の暮らしなど、懐かしい思い出が詰まった写真帳です。

200103　男里の火葬場

火葬場の写真

撮影場所　男里　年代　昭和46年撮影

なぜ宝物？ 持ち主によると子どもにとって、絶好の遊び場だったとか。茂る木々には「セミやカブトムシがたくさんいた」とのこと。昼でもうっそうとしていたので「肝だめしもやった」そうです。施設が老朽化したことなどから現在は取り壊されています。



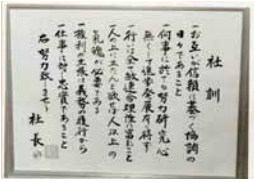
200302　紡績工場のアルバム

紡績工場での工程がわかる写真

撮影場所　樽井

年代　昭和30年代

なぜ宝物？ 紡績工場が工程を撮影したもの。紡績業が最盛期だった頃の写真。原綿を繊維をそろえ（混打綿（こんだめん））、次に棒状にし（梳綿（りゅうめん）・カード場）、細く引き伸ばし（練条（れんじょう））、撚りをかけます（粗紡（そぼう）・精紡（せいぼう））。忙しい時は24時間操業し、3交代制だったとのことです。



樽井駅を和歌山側から撮影したもの。駅北側の工場がないことから大正８年以前に撮影したものか。駅のホームには電車が停車しており、当時の車両の様子がよくわかる。

手ぬぐいを頭に巻いて海水浴をする子どもを見守る女性。樽井紡績の桟橋が見え、その向こうには、煙突が幾本も写る。当時盛んだった紡績工場かレンガ工場の煙突か。

浜辺の船置き場があった付近を撮影したもので、当時の浜辺の様子がよくわかる。

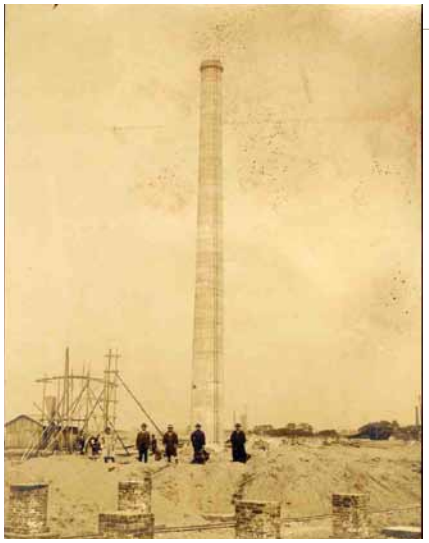
樽井駅のホームを南側から撮影したもの。後ろにみえるのは、料亭「湖月（こげつ）」。湖月の横に工場が写っていないことから、大正８年以前に撮影されたものか。

大きな庭の片隅で腕を組む少年。

縁側でオルガンを前に微笑む少年。

縁側で猫とたわむれる子どもたち。

200502　大正時代のアルバム
樽井駅前・樽井の砂浜・当時の風俗などが判る写真
撮影場所　樽井　年代　大正時代から昭和初期
なぜ宝物？ 持ち主の親類のもの。大正時代から昭和初期にかけての樽井の町並みや人々の暮らしがよくわかる。



200503　樽井紡績の煙突
工場建設中の写真か
撮影場所　樽井
年代　大正８年頃か
なぜ宝物？ 煉瓦造りの基礎のむこうに立つ、大きな煙突。「樽井紡（たるいぼう）」の建設工事中の写真です。写真が撮影されたのは、樽井駅の北隣。今も工場が操業しており、当時の煙突やレンガ造りの建物が一部残ります。「樽井紡」とは、樽井紡績株式会社のこと。大正８年、城野伊三郎氏をはじめとする地元の出資と熱心な誘致により設立された、大規模な紡績工場。大正十年代の記録（吉見紡績と合併後）によると、生産高は岸和田以南で４番目の規模。紡機は一万錘で織機は420台、従業員は千人以上。ちなみに明治時代末の樽井村の人口は、二千人ほど。樽井紡績の設立により村は一変したことでしょう。この後、市内各地で紡績業が盛んになり、昭和30年代には絶頂期を迎えます。この煙突は、「糸へん」の時代の幕開けを告げるモニュメントといえるのではないでしょうか。

200506　樽井の町並み　　葬儀の行列
撮影場所　樽井　年代　大正時代か
なぜ宝物？ 樽井５丁目付近で撮影された写真。行列が歩くのは旧国道26号線（府道63号線）の「樽井南」交差点と、南北に交差する道。古くは根来街道として、昭和初期までは「樽井のメイン通り」としても親しまれた道です。

200504　湖月にて
玄関前での記念写真
撮影場所　樽井
年代　大正時代か

なぜ宝物？ 樽井の砂浜は、松林のむこうに遠浅の海がひろがる「見事なもの」だったとか。そばには、「湖月」と呼ばれる料亭がありました。いずれの写真も、湖月の玄関前で撮影されたもの。写真の持ち主によると、海水浴でにぎわったほか、大正時代には「樽井紡設立の寄り合いがひらかれた」場所でもあるそうです。

200505　湖月にて
玄関前での記念写真
撮影場所　樽井
年代　昭和10年代

200507　大正時代の女の人たち
持ち主自宅庭での写真
撮影場所　樽井
年代　大正時代か
なぜ宝物？ 当時の人の格好がよくわかる１枚。持ち主が今も住む庭先で撮影したものです。

200508　樽井の「おわかれ場」
「おわかれ場」の落成式の写真
撮影場所　樽井
年代　昭和初期か

200509　樽井の浜辺
浜辺の建物
撮影場所　樽井
年代　昭和初期か

200509　樽井の浜辺
漁船に網を積む様子
撮影場所　樽井
年代　昭和初期か

なぜ宝物？ 昭和初期、地元の子どもたちの遊びといえば樽井の浜での海水浴。写真の持ち主もその一人で、毎年夏休みに入ると、午前中に「なるべくはやく」家の手伝いをすませ、午後は毎日友達と船で沖まで漕ぎ出し海水浴をしていたとか。船といっても、学校から借りてきた「伝馬船」で、ちょうど写真のような船。当時「岸中（岸和田中学校）」には４隻の伝馬船があり、夏休み期間中は「貸してくれた」そうです。ただし、樽井まで持ってくるのは自分たち。「岸和田の浜から、樽井まで３時間以上かかった」とのこと。今の世代だと、ちょっとためらうような手間隙。松林のひろが砂浜を遠くに眺めながら、船を浮かべての海水浴は、今思えば「優雅な夏休みだった」とか。ちなみに樽井にすむお年寄りによると、漁船に網を積み込んでいる写真は「鳴滝の浜かも」とのこと。「あんぶね」と呼ばれる大型で２～４本の櫓で漕ぐ船で、積み込んでいるのは「浜辺にローラーを置いて巻き上げるおおきな地引網」。樽井ではこのタイプの地引網漁はしなかったそうです。

200510　昭和初期のアルバム
洋館の遠景
撮影場所　不明
年代　昭和初期か

200509　樽井の浜辺
櫓を持つ子ども
撮影場所　樽井
年代　昭和初期か

200510　昭和初期のアルバム
店先で子どもを抱く女の人
撮影場所　不明
年代　昭和初期か

200511　岸和田中学校の卒業紀念写真
現岸和田高校の卒業記念写真
撮影場所　岸和田市
年代　大正 10 年撮影
なぜ宝物？ 持ち主のおじのもので、ゲートルを巻いた中学生が時代を感じさせます。

200510　昭和初期のアルバム
難波周辺の町並みか
撮影場所　大阪市内
年代　昭和初期か

200512　泉南郡会議事堂前での記念写真
泉南郡役所の議事堂前での写真
撮影場所　岸和田市
年代　大正 15 年以前
なぜ宝物？ 明治 31 年から大正 15 年まで、泉南郡役所という行政機関が岸和田市にありました。

200514　吉見紡績での写真
事務所前での集合写真
撮影場所　田尻町
年代　大正時代か

200513　樽井愛国交正会の記念写真
警察署長を交えたマツタケ狩りの記念写真
撮影場所　阪南市
年代　昭和初期までか
なぜ宝物？ 大正時代、樽井地区に樽井愛国交正会という団体がありました。樽井地区にある山の井遺跡には、その名を刻んだ柵が今も残ります。

200515　吉見紡績での写真
事務所前での集合写真
撮影場所　田尻町
年代　大正時代か

200516　吉見紡績での写真
事務所前での集合写真
撮影場所　田尻町
年代　大正時代か

なぜ宝物？ 吉見紡績とは、当時「紡績王」といわれた谷口房蔵（たにぐちふさぞう）氏が設立した会社。谷口氏は当時の樽井村ともかかわりが深く、「樽井紡（績株式会社）」設立にも尽力した人。吉見紡績株式会社の本社事務所前での写真で、「樽井紡」の設立に尽力した城野伊三郎（じょうのいさぶろう）氏をはじめとする樽井村の人たちが写っています。

200517　屋敷前での集合写真
樽井ゆかりの人が写る
撮影場所　不明
年代　大正時代か

200518　屋敷前での集合写真
樽井ゆかりの人が写る
撮影場所　不明
年代　大正時代か

なぜ宝物？ 何かの「寄り合い」のときに写したものでしょうか。

200702　昭和天皇の家族写真
記念写真
撮影場所　不明
年代　昭和初期

なぜ宝物？ 写真中央は生まれたばかりの天皇陛下。出生を祝うためのものでしょうか。同世代の持ち主の家では、親子三代でこの写真を見てはあれこれ話に花が咲くそうです。

201401　『新家尋常高等小学校卒業記念写真帖』
撮影場所　新家
年代　昭和 15 年発行

201402　『新家国民学校卒業写真帖』
奉安殿（ほうあんでん）が写る
撮影場所　新家
年代　昭和 17 年発行

なぜ宝物？ 新家国民学校とは、現在の新家小学校の前身。ご応募いただいた方の母校。朝礼の時はいつも必勝を願って天皇の住まいである「宮城（皇居）」に向かって「最敬礼」をしていたとか。「最敬礼」とは腰を 90 度にかがめるお辞儀のこと。今ではその言葉すら耳にしません。「奉安殿」とは、天皇皇后の写真を保管するためのもの。当時は全国各地の学校で、奉安殿のような施設がありました。写真を注意深く見ると、当時は何よりも規律を重んじる教育だったことがみてとれます。三つ揃えや着物姿で居住まいを正す先生たち。りりしい顔つきで姿勢を正す生徒たち。きちんとそろえて開けられた校舎のガラス窓。ご応募いただいた方に教えてもらって気づいたことですが、とても印象深いところです。

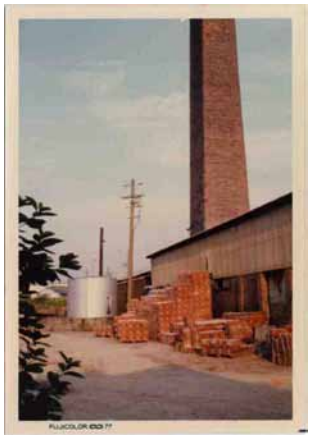
202101　大正時代のウラジオストック港の写真
ウラジオストック港のパノラマ写真（5 枚継ぎ）　撮影場所　ロシア・ウラジオストック　年代　大正 10 年頃に撮影

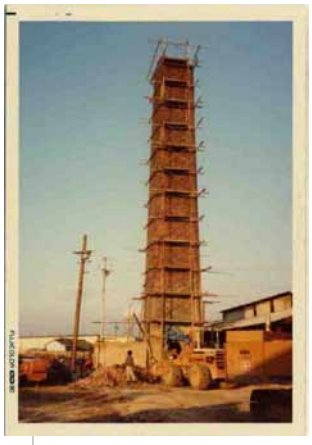
なぜ宝物？ 長さ 1.5 mほどの立派な額に入ったパノラマ写真。裏には「露領浦潮斯徳市穂下写真館…」との押印。貿易商だったの父のもの。ただし写真の由来などは「よくわからない」とのこと。「アメリカなど」海外での生活が長かったそうです。このうち、大正 10 年頃に数年間、一家がウラジオストックで暮らしていたことから、「そのときに父が撮影したのかも」。歴史をひもとくとロシアとは友好的な関係ばかりではありません。にもかかわらず大正時代に日本人がロシアで暮らし、写真を大事に持ち帰えるということは、そこでの生活によほどの思い入れがあったのでしょう。遠い昔の異国の写真ですが、「日露友好に役立つかも」しれませんね。

202301　むかしの東小学校の記念写真

小学校の記念写真か。
撮影場所　信達金熊寺（しんだちきんゆうじ）
年代　明治時代か

なぜ宝物？ 信達葛畑（つづらばた）地区で保管されていた写真です。東小学校の前身、六尾（むつお）尋常小学校の写真だと考えられます。撮影場所は、信達神社の参道であることが判明。参道の石敷きや写真右端の石塔の形と割れ目が決め手です。ただ撮影された年代はよくわかりません。年配の東小学校卒業生によると大正時代生まれの方は「記念写真を撮った覚えがないし、人数も多い感じがする」そうで、昭和10年代生まれの方は「我々のときはクツや洋服の子どもがいた」とのこと。他に「近隣の他校から来た児童たちの記念写真かも」との意見など。結局年代はわからずじまいです。これは貴重だと気付いた時には、すでに遅いこともあるようですね。





202202　三和煉瓦製造所の煙突

煙突解体工事の連続写真
由来する地区　中小路（なこうじ）
年代　おそらく創業当時に建設、昭和47年頃解体

なぜ宝物？ 高さ40mほどで、「海図に記載されるなど、航行する船舶の目印にもなった」ほどだとか。太平洋戦争当時はその大きさから「機銃掃射や焼夷弾でえらいめにあった」とのこと。幸い200名ほどいた従業員には被害がなかったそうです。解体のとき、「せめて写真に」と残したものです。

210101　関空（かんくう）ができるまで

撮影場所　岡田・樽井　昭和62年から平成5年

なぜ宝物？ 「工事の進み具合を写真に残しておこう」と持ち主が撮影したもの。はじめは1カットのみですが、「1枚ではとてもおさまらなくなり、パノラマ写真にした」とのこと。空港島の埋め立てや連絡橋の工事、海岸線が埋立てられていく様子がよくわかります。

210501　鳴滝村長のアルバム

撮影場所　鳴滝

大正時代から昭和 20 年代に撮影

なぜ宝物？ 鳴滝村の村長を務められた方がまとめたアルバム。在任中の村での出来事などを、丁寧な書き込みと共につづったものです。当時の村の様子を残す貴重な写真ばかりです。（ゴチックは書込み）

昭和 13 年 5 月 4 日

児童愛護宣伝隊街頭行進

戦没者の出迎え。樽井駅まで出迎える様子。昭和 17 年以前に撮影か。「戦争が激しくなると、ここまで丁重に迎えることはしなかった」そうだ。

保健婦による子どもの身体測定

昭和初期、子どもが亡くなることが多かった。「思い込みで治療をしていたため」とのこと。これを改善のするため、「保健婦さん」の派遣を要請。以後子どもが元気にそだつようになったそうだ。「とても世話になった」と教えてくれた。左写真中央が「保健婦さん」。その後は郷里で「村長になった」とのこと。

昭和 19 年 3 日 9 日

組み親の記念写真

「組み親」とは若者グループを見守る先輩みたいなもの。付き合いは長く縁組などもお願いする。写真中央が、その他の人の組み親。

竣工式典の記念写真

昭和 21 年 5 月 11 日

鳴滝国民学校

事業名　地方改善事業中地区整理事業

事業年度　　自昭和 8 年至昭和 17 年

工事方法　　直営工事

事業費　　109,601 円、国庫補助 82,201 円、府費補助 10,960 円、村費 16,440 円

起工式　昭和 9 年 4 月（神社）

現在地区内にある大通りを整備したときのもの。それ以前は「荷車が通るのがやっとなほど」の狭い道だった。「地区の発展には道路の整備が必要」と昭和初期に整備に着手。地区のひとたちは土地を出し合って「どこにも負けない道」をつくった。昭和初期に整備したおかげで、「今でも車が自由に通れる」。鳴滝第一小学校の校門横に、この事業の記念碑がある。

昭和 21 年 2 月 22 日　文部省

視学委員　中部青年学校視察の記念左より：鳴滝村長、視学委員、中部青年学校長、信達町長、雄信達村長

昭和 13 年 2 月 9 日

十ヵ年継続事業地区整理工事に関する件につき内務省へ陳情

左より助役、村長、村会議員

昭和 11 年 10 月 20 日

優良吏員として知事より表彰

昭和 21 年 2 月 24 日

市場警察署長歓送迎会記念の写真　右より、雄信達村長、西信達村長、鳴滝村長、新任署長、信達町助役、前任署長、樽井町長、新家村長、警部補

昭和 21 年 3 月 20 日

鳴滝国民学校初等科の卒業記念写真

昭和 17 年 6 月 13 日　市場署管内町村指導者練成講習会の様子

砂浜は樽井海岸

持ち主いわく「何かの作物の講習会と違うかなあ」とのこと。畑でここまで大勢で作業をすることはまずないためだ。もしかしたらタバコの植え付けをしている様子かも。

昭和 15 年 5 月 1 日

満州帝国皇帝陛下御寄贈興農文庫の整理の様子

昭和 13 年 5 月 30 日

朝日新聞社社会事業団の農繁期託児所の表彰式の様子。「農繁期に子どもを預けるための託児所があった」とのこと。農繁期は一家総出で農作業をしていたためだ。

210502　タバコ畑での写真

撮影場所　九州　昭和初期に撮影か

なぜ宝物？ 九州のタバコ畑で撮影されたものです。写真に写るのは持ち主のおじ。鳴滝村から「タバコの先生（農業指導員）」として九州に行ったときのもの。昭和 20 年代まで、鳴滝地区はタバコ作りが盛んな地区のひとつでした。地区の人々は「ノウハウがあったから、技術指導で各地へ行った」そうです。タバコ作りがおこなわれたのは「とにかく収入がよかった」から。持ち主自身も携わったことがあるとのこと。米との二毛作で、「忙しかったがやりがいがあった」そうです。ちなみに写真のタバコは「育ちすぎ」。「これでは葉は大きく育たない」そうで、「芯どめせなあかんなあ」とひとこと。

210503　昭和初期の記念写真

撮影場所　奈良市　昭和 5 年 4 月 25 日撮影

なぜ宝物？ 春日大社へ行った時の記念写真。「旅行に出かけた記憶がない」という持ち主親子にとってとっておきの一枚なのかも知れませんね。

撮影年代不明

昭和 28 年 10 月 11 日撮影

210601　樽井の秋祭りの写真

撮影場所　樽井

年代　昭和 20 年代以降に撮影か

撮影年代不明

なぜ宝物？ 「代々祭り好き」の持ち主宅にあったもの。樽井地区での祭りの移り変わりがよくわかる写真です。地区での秋祭りは、戦時中に中断していいましたが、その伝統は今も続きます。持ち主の父は帖元をつとめたとか。「帖元の家はとにかく大変だった」とか。寄り合いなどの来客は多く、祭りが近づくと「夜もゆっくり眠れなかった」ほどだそうです。祭り好きの一家ならではのエピソードも教えてくれました。持ち主の長男は「やぐらのおかげで歩けるようになった」そうです。長男が 10 ヶ月の頃、去り行くやぐらを見て、「いきなり駆け出した」とか。50 年ほどたった今でも語り草になっているそうです。樽井幼稚園には園児たちが曳くためのミニやぐらがあるそうです。祭りの時期になるとやぐらごっこをする園児たちを見て、「園長先生が用意したもの」だとか。いまでは恒例行事となり、毎年祭りの時期が近づくと、樽井幼稚園のミニやぐらが地区をねりあるきます。祭りは家族や親戚のあつまるきっかけでもあったそうです。持ち主宅には毎年 20 人ほどが集まり、とにかく「にぎやか」。おかげで女の人は、押し寿司にあんころ餅などのほか、飲み物などの準備に「とにかく忙しかった」そうです。

撮影時期不明、撮影場所　樽井駅改札前の道路

昭和 17 年 7 月 12 日撮影

昭和 30 年 7 月撮影

撮影年代不明

昭和 62 年撮影

210602　樽井の浜辺

撮影場所　樽井　昭和 17・30・62 年撮影

なぜ宝物？ 遠浅の砂浜と見事な松林。駅から近く、料亭もあることから多くの人が訪れた浜辺です。防波堤ができる前からの景観のうつりかわりがよくわかる写真です。樽井に住む持ち主の家では、夏の遊びといえば樽井の浜での海水浴。「水着のまま家から飛び出し」て海水浴に出かけたそうです。

210603　樽井小学校の運動会

撮影場所　樽井　昭和 40 年頃撮影

なぜ宝物？ 旧校舎の頃の写真です。木造で平屋の校舎は、正門のすぐ近くにありました。

大阪方向を撮影

和歌山方向を撮影

210604　樽井の町並

撮影場所　樽井　昭和 30 年頃撮影

なぜ宝物？ 浜街道沿いのようすがわかる写真。「仁右衛門坂」との交差点付近の町並みを、大阪方向と和歌山方向に撮影したものです。リアカーの周りだかりができていますが、「たぶん行商の人」とのこと。当時はリアカーの全盛期。リアカーでの行商が多く、街道沿いを売り歩く姿がよく見られたそうです。持ち主自身も樽井駅まで運ばれた大きな荷物をリアカーでとりに行ったことがあったそうです。

二代目の二宮像の落成式典

初代の二宮像か

210605　樽井小学校の二宮像

撮影場所　樽井

昭和初期から終戦後に撮影

なぜ宝物？ 樽井小学校に今もある二宮尊徳の像。その落成式典の写真です。ひとつは戦前に立てられたときのもの、もう一つは戦後に再建された時のものです。というのも先代の二宮像は戦時中に供出されたためです。再建のきっかけは地元住民の熱意。出資者の協力もあり、戦後に見事に再建。今も樽井小学校の正門脇にたっています。

210609　泉南町発足の写真

撮影場所　市内

昭和 30 年に撮影

なぜ宝物？ 今の泉南市の前身、泉南町発足に関連する写真です。写真の裏にメモが書かれています。「昭和 30 年初頃　町村合併ニテ地方事務所に■■ノ時　誰カ撮影　樫木町長、雄信達谷村長、新家東村長　巴里議長、■■信達議長が見える」

明治時代か（ガラス乾板）

撮影時期不明

撮影時期不明

210606　稲垣謙一（いながきけんいち）元樽井町長の写真

撮影場所　樽井

明治時代から平成２年に撮影

なぜ宝物？ 昭和 26 年から樽井町長を務め、泉南町合併に尽力した方。ひとことで言うと「多趣味でハイカラ」なひとだったとか。100 歳をこえても元気に暮らしていたとのこと。「義理堅い人」でもあり、若い頃の恩を終生忘れることがなかったそうです。

明治 43 年３月２日撮影

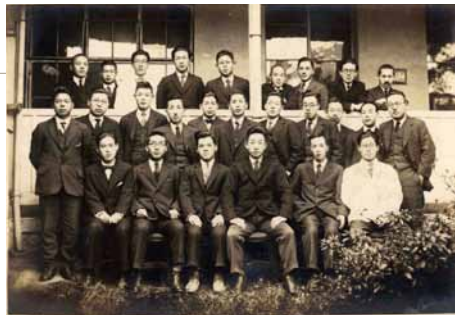
平成２年撮影

210607　吉見紡での写真

撮影場所　田尻町

昭和初期に撮影

なぜ宝物？ 吉見紡で撮影された写真。樽井紡とともに、戦前に設立された泉南地域でも指折りの紡績工場のひとつです。



「本支店転任退社に際し記念撮影　昭和３年３月２日」

昭和２年１月３日撮影於吉見本社医局前

昭和５年１月３日撮影

210608　樽井町制十周年記念式典の写真

撮影場所　樽井

昭和 25 年４月撮影

なぜ宝物？ 昭和 15 年に樽井町が発足。樽井小学校で撮影されたものか。

210610　樽井駅の写真

撮影場所　樽井　昭和 29 年以前

なぜ宝物？ この写真をみて昭和 20 年代にあった出来事を教えてくれました。樽井駅を急行停車駅にするように南海電鉄と交渉したことがあったそうです。戦後の町の発展には欠かせぬ条件のひとつだったからです。根気強く交渉した結果「尾崎駅より乗降客が多ければ急行停車駅にする」との条件が出たとか。皆で乗降客を数えたが「尾崎駅を超えることはできなかった」そうです。

210611　明治 44 年の樽井尋常高等小学校の卒業記念写真

撮影場所　樽井

明治 44 年撮影

210612　大正３年の樽井高等小学校の卒業記念写真

撮影場所　樽井

大正３年撮影

210613　大正４年の樽井高等小学校の卒業記念写真

撮影場所　樽井

大正４年撮影

210614 大正６年の樽井尋常高等小学校の卒業記念写真
撮影場所　樽井
大正６年撮影

210615　大正７年の樽井高等小学校の卒業記念写真
撮影場所　樽井
大正７年撮影

210616　大正６年の西信達（にししんだち）尋常高等小学校の卒業記念写真
撮影場所　岡田
大正６年撮影

211701　紋羽（もんば）工場前での集合写真
撮影場所　樽井
昭和初期に撮影か

なぜ宝物？ 紋羽工場を営んでいた持ち主の家で見つかった写真。詳しいことはよくわからないそうですが、工場の前で集まっているのは従業員でしょうか。

211702　ガラ紡（ぼう）の操業する様子
撮影場所　樽井
昭和 20 年代に撮影か

なぜ宝物？ 紋羽に欠かせぬ糸が、ガラ紡糸（ぼうし）。樽井の紋羽工場は一貫生産が主流だったとか。貨車単位で原綿を購入し、糸を紡ぎ、紋羽を織って出荷していたそうです。

211703　紋羽の起毛作業
撮影場所　樽井
昭和 20 年代に撮影か

なぜ宝物？ 織り上げられた紋羽は、起毛作業が施されます。このため保温性が高く、昭和 30 年代まで足袋裏の布地として生産されていました。戦後、起毛作業がドラム状の機械をつかっておこなわれていた時の写真です。布の規格は２つあり、「ひろはば」と呼ばれる１ｍほどの厚手のものと、「こはば」といわれる 50 ㎝ほどの柔らかいもの。写真の紋羽はおそらく「こはば」。

211704　飛行艇での旅行
撮影場所　不明
昭和初期に撮影か

なぜ宝物？ フロートの上にいるのは、持ち主の祖父夫妻。詳しいことはよくわからないそうですが、「祖父らしい写真」だとのこと。おそらく堺市の大浜から発着していた旅客用の飛行艇を利用した際の写真だからです。この飛行艇は、おそらく日本航空輸送研究所が運行していた日本初の定期航空便のもの。大正 12 年から昭和 18 年代まで、大浜（のちに木津川）と小松島や高松、大分、白浜とを結んでいた。

211705　行田（ぎょうだ）市での足袋用布地展示会の様子

撮影場所　行田市（埼玉県）　昭和 20 年代に撮影か

なぜ宝物？ 樽井で製造された紋羽は、足袋裏の布地として出荷。持ち主一家が営んでいた紋羽工場では、埼玉県の行田市と、徳島県のおそらく鳴門市に出荷していたそうです。ちなみに居並ぶ紳士のなかで泉南の人は一人だけのようです。樽井での紋羽生産が下火のころの写真家も知れません。

211707　ご近所の出征

撮影場所　樽井（樽井駅・茅渟（ちぬ）神社など）

昭和 10 年代に撮影

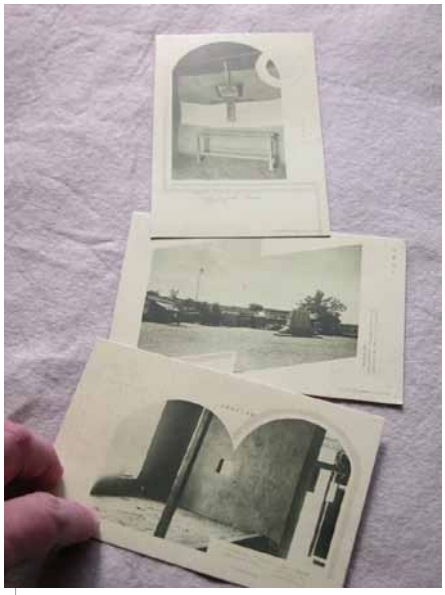
なぜ宝物？ おそらく近所の方の写真。茅渟神社や樽井駅での写真から、子どもからお年寄りまで、たくさんの人が見送りに来ていたことがわかります。

211708　関東大震災の写真

撮影場所　東京都

昭和 12 年 9 月に撮影か

なぜ宝物？ おそらく関東大震災の写真。「大正 12 年 9 月 1 日被服省」との書き込みが手掛かりです。関東大震災は、千葉県から静岡県までの広い範囲の地震で、マグニチュード 7.9。死者、行方不明者は 10 万人以上といわれます。これらの写真はおそらく被服省跡地での惨事を写したものだと考えられます。



211710　旅順（りょじゅん）水師営（すいしえい）会見所の絵ハガキ

撮影場所　旅順

昭和初期に撮影か

なぜ宝物？ 水師営とは、1905 年、日露戦争の講和会談が行われた場所。おそらく昭和初期に発行された絵ハガキです。

211709　昭和初期のデパートか

撮影場所　不明　撮影時期　不明

191101　中小路（なこうじ）の古文書

代々伝わる中小路の古文書

由来する地区　中小路

年代　元禄三（1690）年以降のもの

なぜ宝物？ 持ち主の家に代々伝わる古文書のうちのひとつ。この絵図にある「天神」という文字をみて、子どもの頃、「むかし中小路には天神さんがあった」という言い伝えや、家のそばを流れる「天神川」は「とてもきれいな水」でホタルもいたこと、魚とりをして遊んだこと、シジミがたくさんとれたことなど、地域の記憶を思い出すとのことです。

210906　『法律百般何でも来い』

由来する地区　信達葛畑（しんだちつづらばた）　年代　昭和 5 年発行

なぜ宝物？ 持ち主の息子さんお気に入りの本。納屋を整理している時、府と目に付いたものです。「タイトルが気に入った」と言うとおり、現在でも通用する分かりやすいタイトル。発行されたのは昭和 5 年ですが、悩みのタネは変わっていないのかもしれません。

食料の獲得

190302　もんどりかんご
水路で小魚を獲る罠
由来する地区　男里（おのさと）
年代　昭和10年代まで使用

なぜ宝物？ 裾を紐でしばり、入り口を流れにむけ、用水路に仕掛けます。翌日には、フナやモロコの小魚や時にはウナギが取れることもあったとか。「かごいっぱいにとれることもあった」そうです。

170405　うなぎかき
うなぎ漁の道具とその知識
由来する地区　男里
年代　昭和20年代に使用

なぜ宝物？ うなぎを捕まえる道具。ため池の水が引いた冬、池底の泥にかくれるウナギをこの道具で引っ掻けて捕まえます。ウナギの隠れ家の目印は、池底に開いたふたつの穴。その間を狙うのがコツ。食用の「まうなぎ」もいなくなり、今は使っていません。

家畜

170412　藁切機
牛のえさの藁を切る道具
由来する地区　男里
年代　昭和20年代頃まで使用

なぜ宝物？ 藁を細かく切り刻む道具。刃を上下させると歯車が回り、藁が次々送られてくる仕組みになっています。持ち主の父が購入したもので、押し切りするタイプより能率が良く、夜なべ仕事で牛のエサに藁を切るとき、とても助かったそうです。

180202　牛のひきずり石
牛をきたえるためのおもり
由来する地区　男里
年代　昭和初期まで使用

なぜ宝物？ 農耕用に購入した子牛を鍛えるためのもので、サイズは「大・中・小」の３種類。春に購入した子牛は、秋に畑を耕すまで、この石を引いて力をつけます。ちょうど７月から９月の間、毎朝１時間ほどの間がラッシュアワーだったとか。昭和30年代後半に耕運機が普及するまで、この石を引きずる子牛の姿は、夏の風物詩だったそうです。ちなみに当時の農家にとっては「牛はたからもの」。愛情を持って鍛え育てていたそうです。

181611　牛のブラシ
農耕用の牛の世話をするのに使った
由来する地区　信達（しんだち）市場　年代　50年ほど前まで使用

なぜ宝物？ 「農家にとって牛は家族」だった当時のもの。汗をかいた牛が風邪をひかないように、毛の生え変わりの時期に、このブラシをかけていたわっていたそうです。

農業

181103　樽井の暗渠（あんきょ）工事の記憶
終戦直後の耕地・用水確保を目的とした、住民参加の工事
由来する地区　樽井
年代　昭和20～21年の記憶

なぜ宝物？ 昭和22年ごろに、耕地確保と用水不足を補うため、地区の住民総出でおこなわれた工事。当時、学生だった持ち主も参加し、工事の様子を詳しく覚えています。集落北西側の海岸線までの耕作地は、高波の被害を受けることなどから、裏作には不向きだったためです。

181601　わら細工
ムシロ機・俵編み機などの道具と知識
由来する地区　信達市場
年代　50年ほど前まで使用

なぜ宝物？ 自慢の「ムシロ機」をはじめ、他にも様々な道具があります。道具のつかい方や、子どもの頃に手伝いで作ったときの思い出話、各家で飼っていた牛も蹄をいためないようにワラジを履いていたことなど、話はつきません。今でも役に立つと気付いたのは最近のこと。小学校で田植えや稲刈りなどの体験学習に協力したことがきっかけだとか。現代農法での授業に不満を感じた持ち主が、ある年にこれらの道具や知識を交えて授業をしたところ、子どもたちの反応がとてもよく、先生も「はじめて知りました」と感心するほど好評だったそうです。子どもの頃に手伝いでムシロを織った覚えがある持ち主。筬は「ふご用」のものもあったとのこと。ムシロ１枚織るのに子どもで２日ほどかかったそうです。

181602　田植えの道具
縄タイプと「わく」
由来する地区　信達市場
年代　昭和40年代まで使用

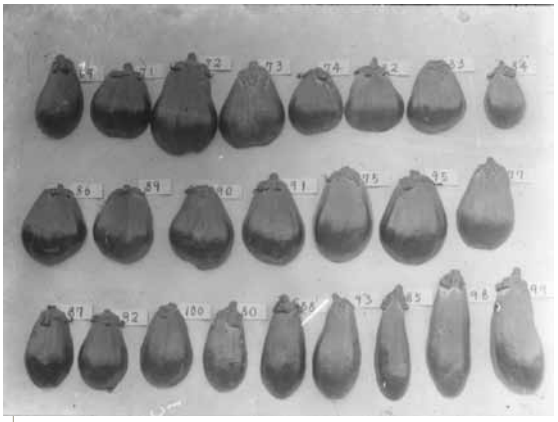
なぜ宝物？ 「わく（写真右）」と呼ばれる四角い木枠は、もともとこの地域にあったもの。本来は全長４mほどで、稲を植えるための目印が刻まれている。「なわ（写真左）」は「紀州から入ってきたものではないか」とのこと。「広い田んぼでとても使い勝手がよい」そうです。

181603　俵の道具
とますととびき（上左）
くらいぬけ（上右）
俵結機（下）
由来する地区　信達市場
年代　昭和 20 年代まで使用

181604　千歯こき（上）と
籾かき（下）
籾を取るときの道具
由来する地区　信達市場
年代　昭和 20 年代まで使用

181606　くわ
袋状の刃部。細かい用途は不明
由来する地区　信達市場
年代　昭和 20 年代まで使用

170414　俵を綴じる道具
俵用の縫い針
由来する地区　男里
年代　昭和 20 年代頃まで使用
なぜ宝物？ 米俵の口を藁縄で綴じるときに使う道具。裁縫の針と同じ使い方をします。とがった先端が特徴で、数回突き刺しまとめて藁縄を通すときなどには都合の良い形状。竹製のものもあったそうですが、金属製の方がすべりがよく能率がよいので人気があったそうです。



190301　きんちゃくなすの記憶
むかしながらの水ナスについての記憶
由来する地区　男里
年代　平成 10 年頃まで栽培
なぜ宝物？ その昔、男里地区で「きんちゃくなす」と呼ばれる水ナスが栽培されていました。巾着形で色はきれいな紫。ヘタに近いところほど淡くなり、「なんとも美しい色」だったとか。専門家によると、現在一般的な水ナスは「絹皮」と呼ばれ、病気につよく大きさや形などが一定なのが特徴。しかし、50 年以上前の泉州水ナスは、個性豊かだったとのこと（上の写真）。大きさや形、色つやは、「極端にいうと農家ごとに違う」ほど。当時は各農家が種を取っていためで、地域色豊かな水ナスが泉州各地で栽培されていたそうです。ちなみにこれらの「個性豊か」な泉州水ナスの子孫が、新潟市ではいまやブランド野菜のひとつ。「梨ナス」などと呼ばれ、形は「きんちゃくなす」と同じ巾着形。昭和初期に泉州水ナスのタネをもとに栽培し始めたのがきっかけだそうです。

210202　除草機
由来する地区　信達市場
年代　代々家にあったもの
なぜ宝物？ 持ち主宅の納屋で見つけたもの。子どもの頃に見かけた道具のひとつです。水田の雑草を取るためのもので、稲株の間を手で押し、回転する金属の爪で雑草を抜き取る仕組みです。現在の米作りに使うことはありませんが、持ち主にとっては大切なもの。小学校の米作り体験に先生役として協力する持ち主。子どもたちに昔の米作りの様子を説明するときに、いつも苦労したからです。「当時の道具があったらすぐ分かってもらえるから」と、自宅の納屋には昔の農具がずらりと並びます。

190202　からさ
豆類の脱穀に使う道具
由来する地区　信達市場
年代　昭和 20 年代まで使用
なぜ宝物？ 持ち主も子どもの頃、大豆を脱穀するのに使っていたおなじみの道具。ムシロにひろげた大豆を、からさの先を回転させて叩くが、コツがあるとか。仕掛けが「単純なのにうまくできている」と気づき「むかしの人はかしこいなあ」と感心するばかり。

170410　俵をしめる道具
米俵を締める道具
由来する地区　男里
年代　昭和 20 年代まで使用
なぜ宝物？ 俵結機。米俵の中央をしめあげる道具。歯車の付いた滑車からのびるワイヤを、俵にまわし固定し、つぎにテコ棒を使い歯車をまわし、ワイヤを巻きあげます。特徴は歯車が緩まない構造。歯車のない旧タイプより使い勝手がよく人気があったそうです。

190304　回転ごき
稲を脱穀する機械
由来する地区　男里
年代
昭和 40 年代頃まで
使用
なぜ宝物？ 足ふみ式でドラムを回転させる。大人が脱穀する横で、子どもがペダルを踏んだり、稲を手渡したり…。当時は親子で作業する風景がみられたそうです。

190303　にない桶
農作物に水をやるときに使う桶
由来する地区　男里（おのさと）
年代　昭和10年代まで使用

なぜ宝物？ 1斗5升の水が入ります。使い方はまるで「曲芸みたいやった」とのこと。オウコで2個担ぐので、その重さは60kgにも。しかも水をやるのも担いだままで、足の指先で桶を器用に傾けていたとか。「ポンプのない当時、畑のあちこちでこの桶を担ぐ姿が見られた」そうです。

200208　藁をたたく杵
手持ちの杵。2個
由来する地区　信達牧野（しんだち）　年代　昭和20年頃から使用

なぜ宝物？ 持ち主が子どもの頃はちょうど「戦争の真っ最中」。靴も簡単には手に入らなかったそうです。代わりにいつも履いていたのは、藁ぞうり。しかも「自分で作っていた」とか。この杵で藁をやわらかくして、ぞうりを編んでいたとのこと。そもそもは持ち主の祖母が使っていたもので、60年以上前のもの。今も家庭菜園のくい打ちなどで活躍しています。

料理の知識

200801　フナの煮付け
父が毎年作っていた郷土料理
由来する地区　男里
年代　昭和20年代

なぜ宝物？ 持ち主の祖父の大好物。焼いたフナを天日干しして、大きめの鍋に昆布と交互に敷きつめ、弱火で煮込みます。フナは近くの双子池で養殖している業者に分けてもらうとのこと。写真の網は銅線で作った自作の品で、天日干に使う網。徹夜でフナを煮込む祖父の姿は今でも忘れないとか。祖父がフナの煮付を作っているのを眺めていたのは、昭和20年代。毎晩食後にフナの煮付をつまみながら熱いお茶をすする祖父の姿をよく覚えているそうです。今になって「どんな味なのか」気になっているとのこと。岡山県の玉野市に同様の料理があるのをテレビで見たので、「いつか食べにいってやろう」と思案しているそうです。ちなみにこのフナの煮付、「どの家庭でも作る郷土料理ではなかったのではないか」とのことです。

180702　くらいぬけ
米を俵に入れる漏斗
由来する地区　男里
年代　昭和20年代頃まで使用

なぜ宝物？ じょうごのように俵の口に差込み米を入れると、こぼすことなく俵に米を詰めることができます。名前の由来は、どれだけ米をいれても（喰らっても）筒抜け（ぬけてばっかり）。だから「くらいぬけ」。

201302　水切り大くわ
水路の管理に使う鍬
由来する地区　男里
年代　昭和20年代ごろまで使用

なぜ宝物？ 水路の管理につかう専用のくわ。地面を掘っただけの水路だった時代、用水を止めたり流したりする堰は土でした。「これだと一度にたくさんの土を扱え」、能率がよかったためです。土かべにつかう粘土をこねるときにも都合がよいとのこと。幅が広いので「かたまりがよくべしゃげる（つぶれる）んや」と教えてくれました。

201303　干しかえし
天日干しする麦の穂をさばく道具
由来する地区　男里
年代　昭和20年代まで使用

なぜ宝物？ 麦の穂を扱う道具。収穫した麦の穂を、庭先でムシロの上にひろげて干すときに使われました。特徴は鉄製の刃先。麦の穂は滑りやすく「木や竹の歯ではまともにすくえない」ので、鉄の刃先が必要だとか。名前のとおり、麦の穂を裏に返したりするのにとても便利な道具とのことです。

210701　押し寿司
由来する地区　市内　年代　現在も続く

なぜ宝物？ 秋祭りにはかかせぬご馳走です。気になるのは具材。「家によって違うけれどもうちは7種類」。エビと魚のそぼろ、エビのむきみ、しめ鯖、焼きアナゴ、しいたけの煮しめ、いりたまごなど。味つけは、醤油とみりんで「しっかりめにつける」のがコツ。隠し味は「味を感じへん程度」のお酢と砂糖で、日持ちをよくするためでもあるそうです。材料は地元のものを使います。安くておいしいからです。詳しいレシピをたずねると「すべて目分量」。コツはと聞くと「あるものを上手につかうこと」。郷土料理は、目と舌で覚えるものなのかもしれません。そぼろの材料はジャコエビとエソ。ジャコエビはゆでたものを、エソは塩焼きにしたものを、「歯ごたえが残る程度」に細かくして鍋で炒ります。焼きアナゴは「皮をこんがり」焼きます。いり卵は「きれいな黄色を出したい」ので醤油は少なめ。今はしいたけを使いますが、以前は地元産のマツタケ。市内で「山ほどとれた」からです。具材が用意できれば酢飯の準備。「やわらかめ」が昔風。卵ぐらいの大きさの「おにぎり」にしてまとめておきます。　あとは木枠への詰め込み。木枠に酢をふりかけ、下から、薄板、バラン、酢飯、具材、バランの順に積み上げていきます。木枠いっぱいになるまで「3段は詰める」とのこと。最後に上に「おもし」をのせて一晩おくだけ。木枠を濡れ布巾でくるんでおけば「祭りのあいだはおいしくたべられる」そうです。

嗜好品

180304　たばこ盆
灰皿
由来する地区　男里
年代　昭和初期に販売

なぜ宝物？ 昭和初期に使われていたもの。当時家具屋さんで商品としても売られていました。キセルを愛用する人が多かったのか、このような昔ながらのたばこ盆が普及していたのでしょう。

210506　高島屋の灰皿
由来する地区　大阪市
年代　昭和初期か

なぜ宝物？ 持ち主いわく「たぶん難波の高島屋の開業記念のものとちがうかなあ」とのこと。現在の店舗は昭和７年に全店開業しました（高島屋ホームページより）。仕事で大阪市内に出かけることが多かった持ち主の父。お土産はいつも「マルキのアンパン」。子どもの頃の思い出がよみがえる灰皿です。

200301　紋羽（もんば）の足袋
足袋裏の底に紋羽を使用
由来する地区　樽井
年代　昭和初期か

なぜ宝物？ 持ち主夫妻の父の形見。裏地底に紋羽が使われており「我が家ゆかりの品」。家業のはじまりが、大正時代創業の紋羽工場だったからです。持ち主の知人で紋羽を実際に作っていた人によると、紋羽とは、「ぬき（横糸）にガラ紡糸を使う」のが特徴。「手紡ぎ糸」のように太く、ムラがある「ガラ紡糸」だからこそ、厚みのある丈夫で暖かい布を織ることができるそうです。樽井の紋羽は、足袋に加工され、全国各地に出回っていました。足袋裏の布地として最適だったためです。生産された紋羽の多くは、足袋製造業者が集まる埼玉県行田市へ出荷。写真の足袋も、そのひとつだったのかもしれません。戦時中は、原材料の統制と、織機の供出で思うように生産できなかったとのこと。終戦後は、生産再開に苦労したそうです。ガラ紡糸をつくるための「反毛機は自作し、ガラ紡機は岡崎（愛知県）まで買いに行った」とのこと。縦糸につかう綿紡糸の急騰や、頻繁におこる停電も悩みの種だったそうです。樽井の紋羽生産も、昭和30年代まで。「国産ナイロンの普及と紡績業の好況」が原因だとか。足袋の需要が激減した頃は、ちょうど「皆競って紡績をした」時代。樽井の紋羽工場も、紡績工場に次々とかわっていったそうです。

210505　タバコ盆
由来する地区　鳴滝（なるたき）
年代　昭和初期から使用

なぜ宝物？ 持ち主の父が用意したもの。黒檀でできており、とても丁寧なつくりです。来客用のもので「ほかにもたくさんあった」とか。当時は「各自にひとつづつ灰皿を用意していた」からです。

210903　タバコ盆と
タバコ入れ
由来する地区　信達葛畑（しんだちつづらばた）
年代　明治時代以降か

なぜ宝物？ いずれも持ち主の父のものです。タバコ入れは「おじいちゃんの必需品」。外出時は必ず帯にさして出かけていたからです。キセルをすいながら、左手で器用に次の「キザミ（タバコの葉）」を用意する姿はいまでもよく覚えているそうです。たくさんあるタバコ盆は来客用のもの。むかしは来客があった場合、めいめいにタバコ盆を用意する風習だったからです。風変わりなデザインのものもありますが、「父親らしい」とのこと。「なんでも自分でそろえる人」で変わったものに目がなかったとか。お客さんを喜ばすための工夫なのかもしれませんね。

衣服

200901　泉州木綿の着物
母が嫁入りの時に持ってきたもの
由来する地区　男里・幡代（はたしろ）
年代　昭和初期

なぜ宝物？ 持ち主の母の嫁入り道具のひとつ。昭和初期、持ち主の祖母が織り上げた布でつくった着物。自分で栽培した綿を糸に紡ぎ、村にあった「紺屋」で染めてもらい、祖母が織りあげたとか。当時、市内では木綿を栽培する農家が多かったそうです。そもそも泉州地域は、江戸時代から木綿栽培が盛んだったところ。当時、「泉州木綿」は一種のブランドとして名が通っていたようです。その伝統からか、昭和初期になっても我が子の嫁入り道具に、手作りの「泉州木綿の着物」を持たせたのかもしれませんね。

181501　げた・ぞうり・こっぽり
こどもの履物。ぞうり
由来する地区　信達牧野
年代　昭和初期のもの

なぜ宝物？ 子ども用の履物で、昭和23年頃に持ち主が使い始めたもの。親子２代にわたって受け継がれ、持ち主の娘も使用。いずれもたたみ敷き。げたは結び目がアクセント、ぞうりは向側がつく冬用、こっぽりは習い事（踊り）のために購入。今でも和装で出かける機会の多い持ち主にとって、思い出の品だそうです。

170402　シュロのみの
シュロの樹皮でつくった雨具
由来する地区　男里（おのさと）
年代　昭和初期に使用

なぜ宝物？ 雨カッパの悩みのたねは、通気性の悪さ。すぐに、汗だくになります。でも、この「シュロのみの」ならそんなことはありません。通気性抜群で、しかも防水性に優れ「現在の高級品にも負けない」と自慢する持ち主。昭和初期に実際に使っていたもので、しかも自作。その頃、自宅近くの川原にシュロの並木があり、そこから取ってきたシュロの皮を縄でとじあわせて作ったそうです。

210621　昭和初期のハット
由来する地区　樽井
年代　昭和初期頃に使用

なぜ宝物？ 持ち主の父のもの。「ハイカラな人」だったそうです。昭和初期、帽子は外出時の必需品。「こんな帽子も持っていたのか」と、おしゃれな父に改めてびっくりしたそうです。

210504　アイロン
由来する地区　鳴滝（なるたき）　年代　昭和初期

なぜ宝物？ 持ち主の母が「着物のしつけ」をするときに使っていたそうです。中に炭火を入れて使うもので「これよりもっと大きなものもあった」とのことです。

190305　伸子（しんし）張り
反物を干して糊付けするための道具
由来する地区　男里
年代　昭和 10 年代まで使用

なぜ宝物？ 今で言う洗濯バサミ兼もの干し竿。着物を洗うとき、縫い目をほどいて反物にしてから洗っていました。洗った着物は米粒でつくった糊で糊付けも。「洗ったばかりの着物は、とても痛かった」そうです。

201205　手織りの帯
持ち主の義祖母が織ったもの
由来する地区　和歌山県
年代　昭和初期以前か

なぜ宝物？ 手作りの浴衣の帯。持ち主の祖母が自分で織ったもの。よく見ると横糸には細く裂いた布などが使われています。

住まい

170403　絵柄のあるガイシ
屋内照明用の碍子
由来する地区　男里
年代　昭和 40 年代まで使用

なぜ宝物？ ガイシ（碍子）とは絶縁体の役割をはたす部品。むかしの民家は電気配線がむきだしのものがあり、このようなガイシが使われていました。昭和 40 年代に取壊した持ち主宅で使われていたもので、青い絵柄が気に入ったので大事にとっておいたものです。

170408　鬼瓦
古民家の鬼瓦
由来する地区　男里
年代　享保七（1722）年に製作
昭和 40 年代まで使用

なぜ宝物？ めずらしいタイプの鬼瓦。持ち主宅の屋根両端（大屋根の両端）についていたもので、取り壊した際に大切にとっておいたもの。側面にヘラで書いた文字が 2 箇所あり、ひとつは「瓦ヤニヘ」と職人の名前と思われるもの、もうひとつは「享保七…十月吉日」と書かれています。

180105　戦時中の国旗掲揚台
太平洋戦争中の隣組国旗掲揚台
由来する地区　男里　年代　昭和 14 年建立

なぜ宝物？ 太平洋戦争前に、地区の隣組で設置したもの。地区でも人通りの多い道に面して立てられたものですが、終戦後は使われることもなくやがて、撤去されることに。太平洋戦争の記憶をとどめる石造物です。

181001　戦時中の防火水槽
空襲に備えるための防火水槽
由来する地区　岡田
年代　昭和 18 年設置

なぜ宝物？ 太平洋戦争時に、空襲に備え各地に設置された防火水槽。この地区にはあわせて 4 箇所ほどこのような防火水槽が設置されたそうですが、現在ものこるのはこのひとつのみです。

200520　嫁入りの長持
土蔵にあったもの
由来する地区　樽井
年代　明治時代以前か

なぜ宝物？ 持ち主の家にある土蔵に、以前からあったもので、「明治時代よりも昔のものかも」とのこと。今も土蔵で大切に保管されています。

200521　和箪笥
土蔵にあったもの
由来する地区　樽井
年代　江戸時代か

なぜ宝物？ 土蔵に、以前からあったもの。「いつ頃のものか見当もつかない」そうです。鍵のついた大きな扉に、細かく分かれた引き出し。縁や取っ手の金具は、いかにも年代を感じさせます。

210622　江戸時代の本棚
由来する地区　樽井
年代　江戸時代以降

なぜ宝物？ 持ち主の祖父をはじめ、4代にわたり教員を務めた家。物置で見つけた時、明治時代頃からのたくさんの教科書などが入っていたそうです。というのも祖父をはじめ皆が「勉強熱心」だったため。本が貴重な時代だったことがわかります。

200601　樽井レンガ
施釉で刻印がある煉瓦
由来する地区　樽井
年代　大正時代

なぜ宝物？ ローマ字読みで「タルイレンガ」とスタンプされた煉瓦。小口には釉がかかり、今のものよりしっかりしたつくり。大正時代に操業していた樽井煉瓦製造所の製品。樽井煉瓦製造所は、『泉南郡志』によると、従業員は10人ほどですが、大正4年の生産量は120万個にのぼります。この煉瓦をみつけたのは偶然のこと。家庭菜園を趣味にしていた持ち主が、「畑の囲いを作るのに」と、自宅前の廃材置き場から拾った煉瓦のうちのひとつだったのです。菜園をやめたときに、文字とロゴマークが入っていることに気づき、大事にとっておいたもの。その後、持ち主はこの煉瓦のことを、近所や知り合いに聞いてみたそうです。ある人は、「レンガ工場は樽井と岡田の間、海岸沿いにあった」とか、またある人は「前畑団地のところで粘土を取って、トロッコを敷いて運んでいた」とか。煉瓦生産は紡績業と併せ、一時市内で盛んに行われていたことを知りびっくりしたとのことです。

170401　まるあんどん
由来する地区　男里
年代　江戸時代以降に使用

なぜ宝物？ 別名「遠州行灯」。江戸時代の茶人の小堀遠州が考案したといわれ、座敷用として作られた高級品。円筒形の障子が回転し、明るさを調節したり、風除けになるようになっています。あかりをともすところが2箇所あり、上側はロウソク用、下側は菜種油用でしょうか。引出しがあり、「ともしび」と呼ばれる火をともす芯が入っていたほか、菜種油をそそぐ「油差し」や、菜種油をそそぎ点灯するための「ひょうそく」もいっしょに保管されており、今すぐにでも使えます。

181609　はだか電球
ガラス製のカサ
由来する地区　信達市場
年代　50年ほど前まで使用

なぜ宝物？ 持ち主が子どもの頃、家で使っていたもの。「夜に空襲警報が鳴れば、黒い布をかぶせて使え」といわれていたことなど、当時の暮らしを思い出すそうです。

180503　火鉢
火鉢
由来する地区　信達葛畑
年代　昭和30年代まで使用

なぜ宝物？ 昭和30年代に灯油ストーブが普及するまで使われていたもの。当時の暖房器具はこの火鉢と寝るときに布団に入れる「コタツ」のみ。火鉢は、各家庭にいくつもあり、大きいものは家族が集まる部屋に常に置き、小さいものは来客用で必要に応じて移動させていたそうです。また、当時は「へっついさん（かまど）」のある別棟の台所に家族が集まり、暖をとりながら、会話がはずむことが多かったそうです。

200105　アンカとコタツ
コタツと豆炭を入れるアンカ
由来する地区　男里
年代　昭和40年代まで

なぜ宝物？ 寒い冬、布団に入れる暖房器具です。コタツは囲いの内側にある火鉢に炭火を入れます。持ち主によると昭和25年ごろまでは使っていたとか。子どもの頃、兄弟で一つのコタツを使って寝ていたそうです。その後、アンカが登場。小型で、豆炭を石綿で挟み込む仕組みになっており便利に進化。昭和40年代になると、アンカも電気アンカに取って代わります。

200802　箱火鉢
火鉢
由来する地区　男里
年代　昭和10年代

なぜ宝物？ つくりが立派で、「欲しがる人が多い」人気の火鉢とのこと。もっとも、昭和10年代の持ち主自身、使った覚えは一切ないそうです。戦時中、空襲を避けて泉南に引っ越してきた際に持ってきたもので、大阪市内で「家具店を営んでいた父」の思い出の品でもあります。

202001　樽井煉瓦製造所の煉瓦
操業時の記憶。製造所跡で採取した煉瓦。
由来する地区　樽井
年代　明治 37 年創業・昭和 20 年廃業

なぜ宝物？ 樽井煉瓦製造所は、昭和 20 年まで市内で操業していたレンガ工場のひとつ。ここでのレンガづくりの様子を、終戦当時子どもだった方が教えてくれました。工場があったのは、樽井の浜辺。座頭池脇のドンド川西側で、南海電車の線路を越えた海側にあたります。創業は明治 37 年。きっかけは「地元の誘致」。レンガ作りに適した良質の粘土がとれる泉南地域でも、いちはやく生産をはじめた工場のひとつ。太平洋戦争中も「かなり忙しかった」そうです。レンガは木枠での型作り。同じ形のものを大量生産できるためです。作っていたレンガは、大まかに 2 種類。建物などに使う「赤レンガ」と、釉のかかった「へっついさん（かまど）」に使うものです。赤レンガは、上下面いずれかに流れ星のような板の動いた跡がみられます。底のないタイプの型に粘土を詰めた後、「針金で粘土を削り落とす」ためです。「へっついさん」に使うものは、全面型仕上げ。外側になる面だけに釉がかかり、上下面に布目が見られます。原料となる粘土は、「長山あたり」から牛が引く荷車で運んでいた覚えがあるとのことです。レンガを焼くのは「のぼり窯」。トンネル状で長さは 30 mほど。内部はちょうど「かくれんぼにぴったり」の大きさ。燃料は赤松で、工場敷地に「山積みされていた」とか。レンガは窯で「3 日間焼き続ける」ため、「薪割り職人さん」がいたそうです。樽井煉瓦製造所では瓦を作ることもあり、「西園寺公望（さいおんじきんもち）の別邸建築に使われた」とか。そう聞くとレンガはどこで使われたのかが気になるところ。「船で安治川の港（大阪市大正区）まで運んだ」その先は不明とのこと。レンガには、樽井煉瓦製造所の刻印やロゴマークがあります。これを手がかりに、どこで樽井のレンガが使われていたのかを探すと面白いかもしれませんね。

211201　ハッキンカイロと
ナショナルカイロ
由来する地区　堺市
年代　30 年程前に使用

なぜ宝物？ 持ち主の母が使っていたもの。正確には「ハクキンカイロ」と呼び、日本独自の携帯暖房器具です。大正 13 年に大阪の企業が開発した特許技術で、独自のプラチナ触媒の作用により、わずかな燃料で程よい温かさが長時間持続します。使い捨てカイロ全盛期の今でも、「ハッキンカイロ」は販売されています。ナショナル黄金カイロは「ハッキンカイロ」とライバル関係にある製品でした。電池式の点火方法で、形もコンパクト。現在生産はされていません。

210618　シンロ
由来する地区　樽井
年代 昭和 30 年代まで使用

なぜ宝物？ 昔の暖房器具で寝る時に足元に入れて使います。ふたがあるので「店番をするとき、足を乗せてアンカのようにつかった」こともあったそうです。

210914　ランプ
由来する地区　信達葛畑（つづらばた）
年代　昭和 30 年代まで使用

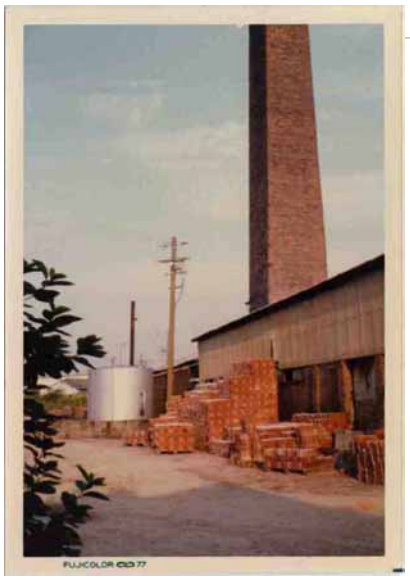
なぜ宝物？ 停電の時の必需品だったとのこと。「油を入れるのが面倒なのでお役ご免」になったものです。

201201　石炭
ストーブに使った石炭
由来する地区　信達市場（しんだち）
年代　昭和 30 年代

なぜ宝物？ 最近めっきり見ることがなくなった石炭。昭和 10 年代生まれの持ち主。石炭を見るたび石炭ストーブのことを思い出すそうです。消防団の詰め所に石炭ストーブがあり、若い団員は寒い中バケツ片手に石炭をもらいに行くのが日課だったとか。「ふと見つけたので」懐かしくなりとっておいたものです。

201202　コタツ
豆炭をいれる暖房器具
由来する地区　信達市場
年代　昭和 20 年代

なぜ宝物？ 寒い冬には欠かせぬ暖房器具。といっても使うのは、布団で寝るとき。中にある小さな器に炭を入れ、布団の足元において暖をとります。「家族に一つずつあった」とのこと。昭和 10 年代生まれの持ち主にとって懐かしい品です。



202201　三和煉瓦製造所ゆかりの品

経営者による操業時の記憶。操業時の会社書類や備品など。

由来する地区　中小路（なこうじ）　　年代　明治41年創業・昭和47年頃廃業

なぜ宝物？ 泉陽煉瓦製造所として設立され手以来、中小路地区で操業した煉瓦工場です。粘土は、おもに市内の「丘（丘陵）」から採掘。「長山（ながやま）からの場合、工場までレールを敷きトロッコで運んだ」とか。煉瓦は「手押（てお）し」と呼ばれる、木型による型作り。木型に「にこずな（離れ砂）」をまぶし、粘土を詰めて、水でぬらした竹ベラで上面を平滑に仕上げます。これを乾燥させたもの（「素地（しらじ）」）で、窯で焼成してレンガとなる。ちなみに「刻印を押したのは耐火煉瓦のみ」とのことです。当時使っていた窯は「輪環窯（りんかんがま）」。「ホフマン窯（がま）」とも呼ばれ、当時一般的だった「登り窯」と比べ生産性が高い窯です。窯の内部は輪になっているため、同じ窯で「素地」を窯詰めしている一方で、焼成が可能になるためです。三和煉瓦にあったのは、平面楕円形で煙突を取り囲むタイプ。窯の高さは「2.5 mほど」、12部屋ほどに区切られ、各部屋は「14畳ぐらい」の広さ。各部屋の天井には、石炭を入れる小窓があり、当時は「近所の子どもが芋を焼いていた」こともあったとか。ちなみに「輪環窯」は全国で57箇所ほど（昭和30年通産省調）。焼き上げられた煉瓦は、「馬力（ばりき）（荷馬車）」で樽井駅まで運ばれ、船と貨車で大阪や和歌山に出荷します。「馬力」で運べるのは1台で800個ほど。駅へはレンガを運ぶ荷馬車が行列になっていたのかもしれません。戦時中も工場は忙しく、煙突が目立つので「機銃掃射や焼夷弾でえらいめにあった」とのこと。幸い200名ほどいた従業員には被害がなかったそうです。大正時代、年間480万個の生産高を誇った市内随一の煉瓦工場も、昭和45年頃にはその生産も下火に。丘陵地の宅地化により、粘土をとる場所が減ってきたためです。「煉瓦づくりは基礎産業」という持ち主。日本の近代化を支えてきた家業への誇りは、ゆかりの品とともに「孫にすべて引き継いである」とのことです。

202203　「やきすぎ」を使った煉瓦塀

三和煉瓦製造所製の

「焼過」をつかった塀

由来する地区　中小路

年昭和33年築造

なぜ宝物？ 持ち主が経営していた煉瓦工場の製品でつくったもの。出荷できない「やきすぎ（焼過）」が使われています。

210904　ケヤキの大黒柱

由来する地区　信達葛畑

年代　200年以上前のもの

なぜ宝物？ 持ち主宅のもので、太さ50㎝ほどの立派なもの。表面はアメ色で、光沢がありとてもきれいです。和歌山県から山道を「引きずってきた」ものだそうで、「これを運ぶのに米一俵も食べた」ほどの大木だったとか。

通信

170701　黒でんわ

むかしの電話機

由来する地区　信達市場

年代　昭和40年頃に使用

なぜ宝物？ この電話機を見る度に、持ち主は幼い頃を思い出すそうです。「おばあちゃんが電話をかけるときは、ダイヤルを回すのを手伝っていた」ことなど、たくさんの思い出が詰まった電話機だから、実家を取り壊すと聞いて「これだけは記念にとっておいた」とのこと。この想いは持ち主だけではありません。持ち主の兄弟にとっても、「懐かしい電話」でとり合いになるほどだとか。「この電話は、兄弟みんなのたからもの」これからも大切に保管するそうです。

170225　信達町農協の有線通信機

電話が普及する以前の有線通信機

（スピーカーのみ）

由来する地区　信達葛畑

年代　昭和30年代から昭和43年に使用

なぜ宝物？ 信達町農協が運営していた、有線放送のスピーカー。受話器を使えば、交換手が信達町内の各家にもつないでくれたそうです。昭和30年代に設置され、昭和43年まで使われていたもので、持ち主の方が今も記念にと残しているものです。往診してもらう際など便利だと評判だったほか、電話が縁で交換手の女性と利用者の男性が結婚するきっかけになったこともあったそうです。

暮らしの道具

170223　とますととびき
米の分量をはかる用具
由来する地区　信達葛畑（しんだちつづらばた）　年代　明治時代以降に使用

なぜ宝物？ 米などを計る道具。「とます（斗枡）」と呼ばれる丸い桶の中に米を入れ、「とびき」と呼ばれる丸い棒ですりきれいっぱいにすれば、ちょうど一斗になります。

170404　かんかんばかり
計量具
由来する地区　男里　年代　昭和初期以降今も使用

なぜ宝物？ 中持ち主の兄が砂糖のはかり売りに使っていたもの。今も現役。尺貫法からメートル法に置き換ったのが昭和34（1959）年。両方併用できる移行期間がありました。その頃に製造されたものでしょうか。尺貫法とメートル法、いずれの目盛りも刻まれています。

170407　ぼうちんぎ
計量具
由来する地区　男里（おのさと）
年代　昭和初期まで使用

なぜ宝物？ 戦時中、米俵（16貫＝60ｋｇ）などをはかっていたそうです。棒の端についている鉤に米俵などを引っ掛け、紐の輪にさらに棒を通し二人で担ぎ、反対側に分銅をつるします。分銅をぼうちんぎの上でスライドさせ、水平になった所の目盛が重さを示します。紐の輪がふたつありますが、使い分けることによって、二十八貫（105ｋｇ）まで量れます。

180803　ちきり
計量具
由来する地区　五島（ごとう）市（長崎県）
年代　昭和40年代まで使用

なぜ宝物？ 大阪では「ちんぎ」。「ちきり」は長崎県での呼び名です。持ち主の父親が長崎県で魚屋さんをしていたときに使っていたもので、2貫目（7.5kg）まではかれます。ふるさとの町で「1貫あるけん10銭にしとくよ」と「ちきり」片手に威勢よく商いをする父や、イタズラをしたときなどに父に「ちきり」でたたかれたことなど、記憶のかたわらにいつもあった思い出ぶかい品だそうです。

180201　孝行臼
老人のために食べ物をすりつぶす臼
由来する地区　男里　年代　江戸時代以降

なぜ宝物？ 江戸時代の泉南地域の名産品。歯の弱ったお年寄りのために、食べものをすりつぶすための道具。『和泉名所図会』によると、鳥取ノ荘（阪南市）で採掘される和泉砂岩が有名で、石碑などに加工されていました。この孝行臼も泉州の和泉砂岩製で『摂津名所図会』によると、当時の大坂における石材の問屋街「長堀の石浜」でも扱われていたとのこと。庶民にとって身近な品物だったのか歌舞伎・文楽の名作『新版歌祭文』のセリフに「孝行臼の石よりもかたい」とあります。

180401　ヨウシキのこぎり
丸太を切るための大きなのこぎり
由来する地区　信達岡中
年代　昭和初期に使用

なぜ宝物？ 握り手をもち２人で引っ張り合いながら使います。「ヨウシキ（洋式？）」と呼ばれていたそうで、持ち主の父が、昭和初期に市内の里山にある松の木などを切るときなどに使っていたもの。昭和初期、市内の里山ではマツタケがよく採れ、鉄道会社のガイドマップや、新聞に名産品として紹介されるほどでした。当時市内の里山では、枯れ木を伐採したり、「スクドカキ」と呼ばれる松の落ち葉をかき集めるなどして、地域の各家庭で使う燃料も集められていました。このような里山での作業が、結果的には里山の手入れになり、マツタケの豊作にもつながったとのこと。自然とうまく付き合っていたひと昔前の生活がうかがい知れます。

180501　ちょんな
丸太の枝・樹皮をはつる道具
由来する地区　信達葛畑
年代　昭和30年代まで使用

なぜ宝物？ 別名チョウナ。材木の表面を削るときに使う道具。持ち主によると、明治時代から昭和20年代まで使っていたとのこと。当時市内の里山には、太さが１ｍもあるような松の大木が多く、民家の梁や「ウシキ（大屋根を支える大きな梁）」につかうために切り出されていました。このチョンナは、山から切り出した松の木の皮を削り取るのに使ったそうです。

180102　蓄音機
レコードプレーヤー
由来する地区　男里
年代　昭和20年代に使用

なぜ宝物？ 持ち主が子どもの頃、この蓄音機で童謡を聴いたり、地区の盆踊りに使っていたとのこと。ゼンマイ式で、持ち運びに便利な品。針や、レコードもいっしょに保管してあります。

210918　電蓄（でんちく）
由来する地区　信達葛畑
年代　昭和初期

なぜ宝物？ 持ち主が子どもの頃に親戚から譲り受けたもの。「大阪市内で工場を経営するおばさん」がもっていたそうです。ぜんまい式の蓄音機も珍しかった当時、電気式でしかもラジオも聞く事ができるタイプ。「これが電蓄や」と家に運ばれきたときのことをいまでもよく覚えているそうです。

170406　ほうきとうきびのほうき
道具の製作技術と素材の栽培方法
由来する地区　男里
年代　現在も製作え

なぜ宝物？ ほうきとうきび（別名ほうきぐさ）でつくった手作りのほうき。昭和初期、市内の各農家ではこのほうきをつくり出荷していたそうです。持ち主の方は素材の栽培から、ほうきの製造まですべて行います。目が細かいのでよく掃け、しかも長持ち。50年以上使っているものもあります。現在は息子さんがその技を受け継ぎ、毎年試行錯誤を重ねながら、仲間と一緒になって「地域の伝統」を守っています。

190203　ほうき
ほうきとうきびで作った自作のほうき
由来する地区　信達市場
年代　昭和40年代に製作
なぜ宝物？ 持ち主の父が作ったもので、ほうき草をしばる「ツル（かずら）」は、具合のよいものを使うのがコツだとか。ちなみに、このほうきに使われているのは、岬町まで採りにいってもらったもの。こだわりの材料があってはじめて、よいものができるのは、今も昔も変わりませんね。

170415　藁縄を作る機械
特殊な器具
由来する地区　男里
年代　昭和20年代頃まで使用
なぜ宝物？ 足踏式製縄機。足踏式のミシンと同じ動作で踏板を踏むと、藁が撚りあわされ、できた縄はドラムに自動的に巻き取られます。農作業に使う藁縄はもとより、蛸壺漁に使う藁縄（タコ縄）など、人に頼まれて作ることもあったとか。持ち主の方の思い入れが強いので、今も大切に残しているものです。

170102　大田商店のとっり
酒屋さんの貸徳利
由来する地区　岡田
年代　明治20（1888）年頃に使用
なぜ宝物？ 「大田商店」は明治20年頃創業の酒小売業を営む店。大田商店が酒のはかり売りする際に用いた「貸徳利」。当時のお酒はビン詰めされていませんでした。商いは手広かったようで、当時この徳利が泉佐野市域から岬町まで貸し出されていたそうです。

181610　やたて
筆つきで金属製
由来する地区　信達市場
年代　50年ほど前まで使用

181608　アース
手動式の殺虫剤用ポンプ
由来する地区　信達市場
年代　50年ほど前まで使用

181612　ぽっこん
金属製の油さし
由来する地区　信達市場
年代　50年ほど前まで使用

210625　昭和初期の定規
由来する地区　樽井
年代　昭和初期まで使用か
なぜ宝物？ 持ち主の父のもので線を引くための「定規」。よく使い込まれています。

181613　昔のマッチ
普及当初のマッチ
由来する地区　信達市場
年代　50年ほど前に入手
なぜ宝物？ 50年ほど前に人からもらったもの。もとの持ち主のおじいさんいわく「マッチが世の中に出回った頃のもの」とのこと。ラベルの絵柄は唐獅子牡丹で、「大日本住吉松田製」と記されています。

170220　漆器膳黒入子

170224　蒸籠（せいろ）
木製の蒸し器
由来する地区　信達葛畑
年代　明治時代以降に使用
なぜ宝物？ 毎年年末に欠かせぬ道具。親族が集まり餅つきをするとき、もち米を蒸すのに大活躍したとのこと。

210202　餅つきに使うかまど
由来する地区　男里
年代　代々家にあったもの
なぜ宝物？ 家で餅つきをするときに使っていたもの。この上に大きなカマを乗せ、蒸籠でもち米を蒸します。今は使っていません。たくさんのお餅をつく機会がないからです。「ここまで大きいものはそうそうないやろ」とかたる持ち主。「捨てるんはいつでもできるからなあ」と、今も大切に保管しています。

170217　漆器椀黒
170219　漆器膳黒

170218　漆器椀赤

170221　漆器膳赤

170222　漆器重箱

180504　朱塗りの盆
由来する地区　信達葛畑
年代　明治時代以降に使用

170411　醤油作りの桶
モロミをすくう桶
由来する地区　男里（おのさと）
年代　明治 18 年（墨書あり）から昭和初期まで使用

なぜ宝物？ 仕込んだもろみを、柄の付いた桶で「もろみ樽」から汲みあげ、先のとがった桶に移し変え、木綿袋に入れ醤油を絞ります。材料の小麦や大豆など、塩以外はすべて自家製。販売していた醤油より、おいしいので自分の家で使う分だけ仕込んでいたそうです。

181607　くぎの樽
「箱買い」の単位
由来する地区 信達市場
年代　50 年ほど前

なぜ宝物？ 納屋で大事に保管していたところ、蜂の巣に。「惜しかったが樽ごと焼いた」そうです。

180502　スキ
土壁を塗るときにつかう道具
由来する地区　信達葛畑（しんだちつづらばた）
年代　昭和 30 年代まで使用

なぜ宝物？ 土壁の壁塗りをする左官屋さんの道具。別名「才取り棒」。高所で壁塗りしている人に、壁土をすくい投げて渡す道具。使っていたのは、持ち主の祖父や父。親族が家を新築する際や、風雨で崩れた壁を補修するときに使っていたもの。今は自宅の補修は工務店に頼みますが、ひとむかし前は親類近所が集まって修理をしていたのかも知れませんね。

200104　手回し式
マッサージ機
持ち主の父が
使っていたもの
由来する地区　男里
年代　昭和初期か

なぜ宝物？ 持ち主の祖父が使っていたもの。ハンドルを回すと先端が振るえる仕組みです。

190101　まくら
坊主枕 2 個
由来する地区　男里
年代　昭和初期か

なぜ宝物？ 応募当初、いつ誰が使っていたのか、まったくわかっていませんでした。ところが応募していただいた後に持ち主が補修していたところ、昭和 4 年の新聞紙が挟まっているのを発見。「祖父たちが使っていたものかも」と、持ち主夫妻は楽しそうに話してくれました。

180106　計算尺
乗除などを計算する器具
由来する地区　男里
年代　昭和 30 年代に使用

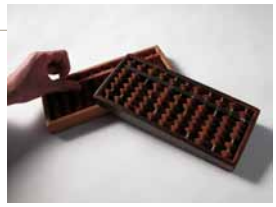
なぜ宝物？ 大学時代に購入したもの。徹夜の実験でとったデータをこの計算尺で計算したことなど、たくさんの思い出がつまっています。計算尺は、電卓が普及する前の計算機で、商工会議所認定の資格制度もあったほど普及していました。

180305　5 玉そろばん
そろばん
由来する地区　男里　年代　昭和 30 年代まで使用

なぜ宝物？ 持ち主の母が使っていたもの。同じものが 2 つあります。ひとつは実家で大正時代から使っていたもの、もうひとつは昭和 30 年代に持ち主の兄から母への贈りもの。 兄が母に 5 玉そろばんを贈ったのは、昭和 30 年代。4 玉そろばんが一般的な時代で、5 玉そろばんを手に入れるのが難しかったため、予備として贈ったのかもしれませんね。

180801　5 玉そろばん
そろばん
由来する地区　信達大苗代（おのしろ）　年代　昭和 40 年代に購入

なぜ宝物？ 使い慣れた 5 玉そろばんを買い置きしておこうと、当時 160 円で購入。当時の初任給が 2 万円程度。かなり高い買い物だったそうです。



180901　5 玉そろばん
そろばん
由来する地区　堺市　年代　昭和 20 年代ま使用

なぜ宝物？ 持ち主の父が使っていたもの。同じ大きさのものが二つあり片方はほぼ新品。持ち主自身、「理由はよくわからない」とのことです。

210624　5 玉そろばん
由来する地区　樽井
年代　昭和初期まで使用か

なぜ宝物？ 持ち主の父のもの。父は樽井紡や吉見紡で経理責任者をしていた人。「とにかく数字に強かった」そうです。

211301　5 玉そろばん
由来する地区　男里
年代　昭和 20 年代に使用

なぜ宝物？ 持ち主の父のもの。学校の教員をしていたときに使用していたものとのこと。

200203　モノクロ写真の焼付け道具
昭和 20 ～ 30 年代に使った道具
由来する地区　信達牧野
年代 昭和 20 年代以降に順次購入

なぜ宝物？ 写真が趣味だった父が、戦後すぐに引き伸ばし機を購入したのがきっかけ。現像は近所の写真屋さんにお願いするが、焼付けは自分でおこなっていたとのこと。自宅の風呂を暗室代わりに、自分でプリントしていました。

200202　今まで使ったカメラ
由来する地区　信達牧野
年代　昭和 20 年代以降

なぜ宝物？ 写真が趣味の持ち主。高校生の時にはじめたとか。当初はモノクロでしたが、その後はカラーリバーサル。デジカメを使う今も当時の機材を大切に保管しています。

200205　押寿司の道具
木枠・おひつ・寿司桶
由来する地区　信達牧野
年代　昭和 20 年代

なぜ宝物？ 持ち主の祖母のもの。毎年祭りになると、バランでくるんだ押し寿司を作ってくれたとか。サバ、エビ、ハモとバランをめくるたび「どれが出るか楽しみだった」とか。今から 60 年ほど前の祖母の味は、現在は持ち主の妻に引き継がれているとのこと。持ち主の家では、今も祭りの時期になると押し寿司を作っているそうです。

201204　尺貫（しゃっかん）はかり
メートル法と尺貫法併記
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期以前

なぜ宝物？ 尺貫表記の目盛りになっています。「そもそも何に使ったのかよくわからない」とのこと。もともと納屋にあったもの。「尺貫表記のバネばかりは珍しい」と思い保管しています。ちなみに当時、身近なところで尺貫法が「生き残っていた」とか。持ち主が子どもの頃「メートルばかり」と呼んでおり、タオルは「百匁のタオル」と尺貫法で区別したそうです。

201207　弁当箱
明治時代から昭和までの弁当箱
由来する地区　信達市場
年代　明治時代以降のもの

なぜ宝物？ 持ち主にとって懐かしい思い出のある弁当箱。かごのように編んだものは、持ち主の親の世代のもの。小さいように感じますが、「ふたにもご飯を詰めればかなりの量」だとか。アルマイト製の深いものは、持ち主が子どもの頃に使っていたもの。農作業など「とにかく腹が減る」手伝いが多く、大きな弁当箱が当たり前の時代。薪集めなどは、未明に家を出るため、朝食に半分、昼に残りを食べることもありました。「子どもは加減ができないので、朝にあらかたたべてしまう」ことも。それを見ていた大人が、昼食時に自分の弁当を分けてくれたのが「とてもうれしかった」そうです。アルマイト製の浅いものは、昭和 50 年代から使い始めたもの。「ご飯の食べやすさにびっくりした」そうです。そこが浅いので、軽く箸でご飯が切り分けられ、しかもちょうど一口で食べられる量になるためです。

201301　かべ土さし
土壁を塗るときにつかう道具
由来する地区　男里　年代　昭和 20 年代頃まで使用

なぜ宝物？ 別名、「才（さいと）取り棒」。土かべを塗りこむ左官屋さんの道具です。スサの入った粘土をこの棒でからめとり、　数m上の人にほうり投げるためのもの。職人さんの「見事な」仕事ぶりを楽しそうに話してくれました。

200206　ミンチの機械
餡（あん）を作るのに使用
由来する地区　信達牧野　年代　昭和 30 年代まで使用

なぜ宝物？ もともと肉をミンチにする道具。あるときは羊羹の餡を練るために、あるときは味噌作りの際に大豆をつぶすのに用いた道具。もともと持ち主の祖母が使っていたもの。和泉砂川駅前にある持ち主の店では、戦前「砂川名物栗羊羹（すながわめいぶつくりようかん）」を販売していたとか。祖母はこの機械で、羊羹の餡になる小豆をすりつぶしていたそうです。戦後は一転、味噌作りに使うようになったとか。蒸した大豆を、この機械ですりつぶし、大量の味噌を仕込んでいたそうです。

201001　あられ煎り
あられをつくるための網
由来する地区　信達牧野　年代　昭和 50 年代まで使用

なぜ宝物？ 昭和 50 年代まで使っていたもの。あられ煎りは、昭和 10 年代生まれの持ち主にとって、子どもの頃「おばあちゃんがあられを焼いてくれた」思い出の品。持ち主の祖母は、かたくなった鏡餅を水につけ、細かく砕き、乾燥させてから煎ったそうです。今残るのは、持ち主の家で何度も買い換えているうち、いちばん新しいもの。持ち主の子どもも、これであられを「焼いてもらっていた」そうです。この頃になると材料は、硬くなった鏡餅でなく、あられ用に搗いた「のしもち」。細かく切って保管しておき、食べる分だけその都度「焼いた」そうです。子どもの頃の思い出と、いつか使ってみようとの思いからいまも大切に保管しています。

200207 寿司桶
木枠・おひつ・寿司桶
由来する地区　信達牧野
年代　昭和 30 年代まで使用

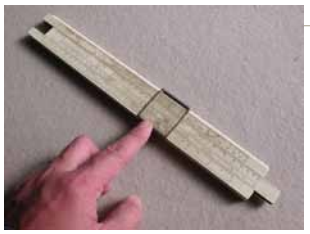
なぜ宝物？ 持ち主の祖母が使っていたもの。「バラ寿司（チラシ寿司）」を作るときにつかったそうで、「大家族やったので、これだけおおきいのがいったんや」との理由も思わず納得の大きさ。

201206　かよい帖
掛売りのときに使う帳面
由来する地区　信達市場
年代　昭和 20 年代以前

なぜ宝物？ ひとむかし前、買い物には欠かせぬもの。この帳面はいわば「お財布」。商店で買い物をすると、店の人がこの帳面に品目を書き記します。その場では代金は不要。支払いは毎月月末にまとめておこないます。「この帳面を片手に、子どもがお使いに行っていたこともあった」とのこと。商売を営んでいた持ち主のおじの家に残っていたものを譲ってもらったそうです。

201002　井戸のつるべ
自宅の井戸で使用していたもの
由来する地区　信達牧野
年代　昭和初期まで使用

なぜ宝物？ 持ち主の家にある井戸で使っていたもの。信達牧野地区は「よく水が湧く」ところだそうで、今も自宅の井戸を使っているとのこと。現在は電動ポンプでくみ上げているので、このつるべもお役ごめんに。



201101　計算尺
乗除などを計算する器具
由来する地区　堺市
年代　昭和 30 年代
なぜ宝物？ 昭和 20 年代生まれの持ち主にとって思い出の品。高校生のときに愛用していたもの。現在のような多機能の電卓がなかった当時、「とても便利な道具」だったそうです。

201602　地搗きの石
地固めをするための石
由来する地区　信達市場（しんだち）
年代　明治時代に使用か
なぜ宝物？ 明治生まれの大工さんにもらったもので、古民家の柱石を据える地盤を固めるためのものだとか。その大工さんに使い方を教えてもらい、やぐらを組んで使い方を復元したものが自宅に「展示」されています。

201601　ガンタ
大きな木材を扱う道具
由来する地区　市内　年代　不明
なぜ宝物？ 昔の民家新築に「これが欠かせぬ道具」。カギのついた棒で梁などの大きな木材を扱うのに便利。

210619　片口
由来する地区　樽井
年代　昭和初期まで使用か
なぜ宝物？ しょうゆなどを樽から瓶に入れかえる時につかう道具です。当時は樽でしょうゆなどを買い、使う分だけ瓶に入れかえて使っていたとのことです。ちなみに当時使っていたのは樽井地区にあった醤油屋さんのものを購入していたそうです。

210620　お茶を冷やす缶
由来する地区　樽井
年代　昭和 30 年ごろまで使用
なぜ宝物？ 夏には「欠かせぬ道具」でした。これを井戸に沈めてお茶を冷やしていたとのこと。樽井地区は「井戸がよくわく」ところ。夏でも「冷たい水がわく」のでスイカなども冷やしていたそうです。各家庭に冷蔵庫が普及するまで、夏の必需品でした。

201605　鎌
湿地の草刈などで使用
由来する地区　市内
年代　不明
なぜ宝物？ 湿地などの草刈に使用したもの。今でも現場で重宝しているとのこと。

201604　石臼
味噌作りなどに使う
由来する地区 信達金熊寺（きんゆうじ）　年代 不明
なぜ宝物？ 石臼は上下セットで残っているのは「まずない」とのこと。苦労してそろえたとか。

201606　鳥かご
ニワトリを飼うための道具
由来する地区　市内　年代　不明
なぜ宝物？ 竹で編んだもの。むかし「チャボのけんか」という遊びあったとか。昭和初期のおとなの娯楽で決まった日に広場で開催されていたそうです。

210905　やかん
由来する地区　信達葛畑（つづらばた）
年代　昭和 30 年代まで使用
なぜ宝物？ 畑仕事の必需品だったもの。仕事先でお茶を沸かすのに使っていたそうです。段々畑の脇を流れる水を汲み、自家製の茶葉で「いつもお茶を沸かしていた」そうです。銅製でとても個性的なデザイン。今でも十分使えます。

210912　茶壷
由来する地区　信達葛畑
年代　昭和 30 年ごろまで使用
なぜ宝物？ 自宅で飲む「お茶を作っていた」ころのもの。畑の脇にはお茶の木が植えてあり、自分の家で消費する分を作っていたそうです。

210902　縄ない機
由来する地区　信達葛畑　年代　昭和初期まで使用か
なぜ宝物？ 縄を撚り合わせるための道具です。ハンドルの先端に縄をつけ回転させると、一本の縄に撚りあわされます。持ち主の家ではシュロ縄を作ることが多かったとか。「水を吸わないし丈夫」だからです。思い入れのある道具だからか、今でも大切に保管しています。

210913　貸し徳利
由来する地区　信達葛畑
年代　不明

210908　さおばかり
由来する地区　信達葛畑
年代　不明

210911　子守ふご
由来する地区　信達葛畑
年代　昭和 30 年ごろまで使用
なぜ宝物？ 親子３代にわたり使ったもの。最初は明治 25 年生まれの持ち主の父、ついで持ち主、そして持ち主の子どもと代々「お世話になった」そうです。赤ちゃんをここに入れておくと「とても機嫌がよくなる」優れものだとか。食事時や忙しい時など「欠かせぬ道具」だったそうです。ただし効果があるのは、たち歩きするまで。自分で歩けるようになると、「入るのも嫌がるようになる」そうです。

210617　吉見紡の給料表
由来する地区　田尻町
年代　大正 10・15 年発行
なぜ宝物？ 吉見紡績株式会社は、当時泉南地域に数少なかった近代的な紡績工場のひとつ。いずれも貴重な記録です。

180802　牛のくら
牛に荷物を運ばすための道具
由来する地区　市内
年代　不明
なぜ宝物？ はじめて目にしたときは「これなんや？」。牛のくらだと知り、愛着がわき大切に保管しているそうです。

181605　鉄輪の荷車
車輪が木製で、外側に鉄板まくタイプ
由来する地区　信達市場
年代　昭和 20 年代まで使用
なぜ宝物？ 牛に引かせる荷車の車輪。通称「てつわ」。車輪の外側に鉄板がまいてあるので「丈夫で重宝した」とのことです。

190201　うしのくつ
ひづめ保護のための履物
由来する地区　信達市場
年代　昭和 20 年代まで使用
なぜ宝物？ 荷物を運搬する牛に、ひづめをいためないようにはかせるもの。持ち主の父が作ったもので藁を束ねて「さっと作っていた」とのこと。持ち主自身は作り方を知らないそうです。なんともいえない魅力的なデザイン。持ち主は「ぜひとも作り方を知りたい」とのことです。

170425　免許証
運転免許証
由来する地区　男里
年代　昭和 13 年発行
なぜ宝物？ 当時の免許制度は、小型、普通、特殊の三種類。小型の場合、750cc 以下（4 サイクル）の四輪自動車を運転できました。

170901　父の免許証
運転免許証
由来する地区　堺市
年代　昭和 11 年交付
なぜ宝物？ 持ち主の父の遺品。これを見た母が若い頃の父の姿を思い出したそうです。「ハイカラな人」で、戦前に自動車販売業を営んでいたことや、当時珍しかった自動車を所有し運転していたことなど、母の語る父の話は、はじめて知ることも。持ち主にとって、父の人柄をより深く知るきっかけとなった「大切なもの」です。

財産

200201　太平洋戦争時の戦時国債など
戦時報国債券・戦時貯蓄債券・貯蓄券戦時郵便貯金切手・引揚者特別交付金国庫債券
由来する地区　信達牧野
年代　昭和 20 年以前
なぜ宝物？ 引揚者特別交付金国庫債券は、戦争中に中国で暮らしていた持ち主一家のもの。数種類ある戦時国債はずっと家にあったものだそうです。

輸送

201603　荷車の置物
鉄輪の荷車でつくった置物
由来する地区　市内
年代　不明
なぜ宝物？ 仕事先で「もったいない」と譲り受けたものばかり。片方だけが集まったので置物にしてみたそうです。

180703　ちんちょう
樽を運ぶための道具
由来する地区　男里
年代　昭和 20 年代まで使用
なぜ宝物？ 四斗樽などの大きな樽、横にして転がすことができない漬物樽などを運ぶときに使います。紐の両端につけ樽のタガに掛け、棒を通し二人で担ぐと楽に運べたそうです。

180705　オウコとサラカンゴ
物を運ぶための天秤棒
由来する地区　男里（おのさと）
年代　昭和 20 年代まで使用
なぜ宝物？ 田畑への客土、ため池の泥を肥料として田畑にまいたりするときに使いました。オウコは、適度なしなりのあるムクの木。サラカンゴは、強度のある籐でつくられています。

190102　柳行李
衣服の荷造り用に購入
由来する地区　男里　年代　昭和 40 年代から使用
なぜ宝物？ 持ち主が大学進学のとき、下宿に衣類を送ったときにつかったもの。当時は引越しに段ボール箱をつかうことはなく、衣類は行李につめて運送されるのが一般的。これらの行李は今も現役。通気性がよく、かるくて丈夫なためです。

170409　牛の道具
牛に鋤を曳かしたりするための道具
由来する地区　男里
年代　昭和 20 年代頃まで使用
なぜ宝物？ トラクターなどの機械が普及するまで、牛は欠かせぬ存在。「しりかけ」は畑を耕すため、鋤を固定するため、「くら」は荷物を運ぶためのもの。使い込んだ自慢の道具で、牛の肩に付ける「くびき」は磨かれたように光っています。

210901　牛のクラ
由来する地区　信達葛畑（しんだちつづらばた）
年代　昭和初期まで使用か
なぜ宝物？ 持ち主の家の屋根裏にあったもの。「これは大事」だと残しておいたもののひとつです。葛畑地区は根来街道から山道を登ったところにある地区。車がなかった時代、荷物は信達六尾から牛に運ばせていたそうです。ドーナツ型の「鈴」は、荷物を運ぶ牛が通ることを知らせるためのもの。狭い山道ではすれ違いできないところもあるため、この音で通行を知らせ「お互い道を譲りあっていた」とのこと。思いやりのある道具です。

210915　オウコとカルコ
由来する地区　信達葛畑
年代　昭和 30 年代まで使用
なぜ宝物？ 荷物を運ぶための道具。井桁に組まれたカルコの上に荷物を載せて、肩にかけたオウコの両端につるして運びます。

210201　マッチのコレクション
由来する地区　男里（おのさと）
年代　昭和 30 年代以降
なぜ宝物？ 懐かしい広告や、往年のスターなど。見る人それぞれの思い出がよみがえるマッチ箱です。

210626　やぐらの記念はがきセット
由来する地区　樽井
年代　平成 10 年 10 月 10 日発行
なぜ宝物？ 「代々やぐら好き」の持ち主宅にあったもの。泉南郵便局が発行したもので、表紙は市役所前でのパレードの写真です。

趣味

180303　陵印
歴代天皇の陵墓参拝記念印
由来する地区　男里
年代　大正時代末に収集か
なぜ宝物？ 持ち主の祖父が集めたもの。宮内庁が管理する歴代天皇の陵墓には、それぞれ参拝記念の印「陵印」があります。明治天皇の陵墓まで押印しているので、大正時代に集めたものではないかとのとです。

180302　御集印帳
神社仏閣の参拝記念印
由来する地区　男里
年代　大正時代から昭和 20 年代後半まで収集

210907　集印帳
由来する地区 信達葛畑　年代　昭和 15 年から昭和 45 年まで
なぜ宝物？ 神社仏閣の朱印をあつめたもの。「一丘神社」など市内のものも見られます．

200204　明治時代の手紙
明治時代の郵便物。信達町長宛
由来する地区　信達牧野
年代　明治時代
なぜ宝物？ 切手収集が趣味の持ち主。古切手の店で、ふと目に付いた封書に「市場村」と書いてあるのに気づき購入。貼られている切手だけでなく、宛名にこそ「値打ちがある」自慢のコレクション。

あそび

181003　むかしの観光パンフレット
泉州地域の観光案内兼電話帳
由来する地区　市内　年代　昭和初期発行
なぜ宝物？ 若い頃、大阪市内の古書店で見つけ購入したもの。『大日本職業別明細図』は、購入希望者多数のため抽選になったほど。ご家族にとっては悩みの種。持ち主夫婦は、これらのパンフレットをめぐって「捨てる捨てない」の騒動になったことも。

180804　バラモン凧
長崎県五島（ごとう）列島の凧
由来する地区　五島市（長崎県）
年代　昭和 20 年代に製作
なぜ宝物？ 長崎県出身の持ち主自慢の凧。バラモン凧は長崎独特のもので、持ち主の父が作ってくれたものとのこと。各家の父親が子どもに作って与えることが多く、「ブィーン」とうなるような音を立てながら空に上がります。タコ糸にガラス片をつけて糸の切りあいをしたり、人の背丈ほどもある大きな凧を日が暮れるまであげたり、ふるさとの思い出がたくさん詰まった凧です。

180706　むかしの雑誌
関東大震災直後発行の被災地写真集など
由来する地区　男里
年代　大正から昭和 30 年代
なぜ宝物？ 最近、屋根裏にあるのを発見。よくみると関東大震災の特集号や、終戦直後の大相撲再開など、気になる記事ばかり。持ち主自身の体験を思い出したり、当時の暮らしなど、昔の思い出を思い出すきっかけになったそうです。

180701 碁石
囲碁の碁石
由来する地区　男里
年代　昭和 20 年代に入手
なぜ宝物？ ハマグリの貝殻と那智黒石を丹念に磨いて作った碁石です。昭和初期に使われていたもので、「ダンナ」と呼ばれる人たちの風情ある生活が想像できます。

181206 切符のコレクション
昭和 27 年以降の JR・南海の切符
由来する地区　市外
年代 昭和 27 年以降、平成初期まで

なぜ宝物？ 250 枚以上が年代順に整理されています。国鉄に勤務していたとき、新人駅員に「たくさんあった切符の種類を覚えてもらうため」に集めたのがきっかけだとか。昭和 20 年代発行の紙製の通勤定期券などのほか、昭和 30 年代の切符が一覧できる『乗車券類の見本』があります。

191401　なにわいろはかるた
なにわ言葉を題材にしたもの
由来する地区　岡田
年代　昭和 60 年発行

なぜ宝物？ 「守りまひょ大阪弁」をモットーに今も活動中の「なにわことばのつどい」が発行。持ち主も参画していました。ユーモラスなイラストにも思わずニンマリ。「せんなんことばも　だいじに　せんなんから」泉南独自の言葉を集めた「せんなんいろはかるた」もつくってみませんか。

171001　力石
力だめしの道具
由来する地区　男里
年代　幕末から昭和 20 年代に使用

なぜ宝物？ この石は「石メ」と呼ばれる種類で、重さは 40 貫（150kg）。両手で抱え太ももの上にのせ胸まで担ぎ上げて、最後に肩に載せます。「かたげごっこ」と呼ばれ、雨の日や農作業の合間に地区の青年会場で盛んに行われていたそうです。なごやかな雰囲気の中、地区の青年たちが力比べに興じた様子が想像できます。

200303　樽井のミニやぐら
飾り用のミニチュア
由来する地区　樽井
年代　昭和 21 年新調

なぜ宝物？ 座敷に飾るためにつくったもので、持ち主によると「樽井にはこのようなミニやぐらが少なくとも 3 台以上ある」とのこと。子どもの背丈ほどの高さですが、つくりは立派。丁寧につくられた彫り物に、太鼓もちゃんと載せられています。「戦後すぐの物不足の時代に、よくもこれだけ材料を集めたものだ」と感心しながら話してくれました。最近、欠けた彫り物や木肌を洗う「大修理」も済ませたところ。当初飾りとして作られたこのやぐらも、最近は「祭りの時期になると、孫が外に引き出して遊んでいる」と苦笑い。

201801　バラモン凧とけんか凧
長崎県五島列島の凧
由来する地区　長崎県
年代　昭和 20 年代の知識

なぜ宝物？ 五島列島特有の凧。持ち主の方にとっては、懐かしいふるさとの遊びです。けんか凧の特徴は、空中で自由に向きを変えらること。「糸の切りあい」をして遊ぶためで、「上下左右自在に動かせる」とのこと。凧が程よい高度になったところで、まず張った糸を緩めると、凧は下へと急降下。間をおいて糸を勢いよく引くと、宙返りして、再び高度をあげていきます。凧揚げしながらの会話は、もっぱらよく飛ぶ凧の作り方。「遊びのいちばんの醍醐味は、自分で工夫する過程とちゃうか」との意見。今は何でも売っている便利な時代なようですが、肝心なものまでは売っていないのかもしれませんね。

211801　兎田（うさいだ）の力石
力試しの道具
由来する地区　兎田
年代　昭和 30 年代後半まで使用

なぜ宝物？ 御影石を使い、ていねいに作られています。大きさの違うものが 3 個あり、「石メ（こくめ）」、「八斗（はちと）」、「六斗（ろくと）」と呼ばれ、重さはそれぞれ 40 貫（かん）（150kg）、32 貫（120kg）、24 貫（90kg）。しかも地区にはこれらの力石を持ち上げた方がご健在です。「どこにでもあるようなものではない」ことから、きれいに展示する計画があるとのこと。どのようになるか「楽しみにしておいて」とのことです。

まつり

181401　やぐらのこまの座卓
大苗代地区の旧やぐらのものを転用
由来する地区　信達大苗代
年代　昭和初期製作平成 8 年に引退

なぜ宝物？ この座卓をかこんでの会話は当然、やぐらの話。まずはコマは楠や桃といった木材を硬さに応じて使い分けている話から。なかでも、7 年間中断していた地区の祭礼を再興するまでの話は印象的。昭和 40 年代、持ち主をはじめとする同世代の若者が地区の人達を説得し再興にこぎつけたとのこと。以来、地区の祭礼は毎年行われています。そのとき現役だったやぐらのコマでつくったのが、この座卓です。

201501　男里のミニやぐら
飾り用のミニチュアやぐら
由来する地区　男里
年代　平成 17 年頃から製作中

なぜ宝物？ 夫婦合作のミニやぐらです。実物の 1/8 の大きさですが、本体のマイやぐらです。夫が本体を、妻が本幕の刺繍をそれぞれ担当。仕上がりは豪華ですが、材料は意外にも身近なものばかり。本幕の刺繍は、新調された男里地区の北組のものを忠実に複製したもの。「やぐらの見所は本幕」と言い切る持ち主にとって、妻の協力があってこその力作です。さらに、ミニやぐら作りの「先輩」にあたる義弟や知人の協力も、欠かせなかったとのこと。というのも「図面だけではわからない」ところが多く、「聞きに行った」こともしばしばだったからです。ミニやぐら作りのいちばんのコツは「人の好意」なのかもしれません。現在 3 台目を作成中。

芸術

170307　オモテを見るよりウラを見よ
太平洋戦争中の世相を反映した水彩画
由来する地区　信達市場　年代　昭和18年頃に創作

なぜ宝物？ 持ち主が小学校6年生のときの作品。我が子に「生きた証」として残している水彩画です。自分の画才を誇示するためではありません。用紙の裏側をよく見てほしいからです。題して「オモテを見るよりウラを見よ」。戦時中の世相を象徴する作品です。

210301　信達駅開業当初の沿線図
由来する地区　信達牧野
年代　昭和5年当時のものの模写

なぜ宝物？ キャンパスに描かれたもの。現在のJR阪和線が阪和電鉄として営業していた頃、「信達駅」が開業した当初の路線図を模写したもの。砂川高校の校長室にあるもので、壁にかけられた生徒などの作品のうちでも校長先生「一番のお気に入り」。学校最寄り駅の和泉砂川駅が「信達駅」という名だったことなど、描かれていることは「初めて知ることばかり」だからです。ちなみに「信達」は鎌倉時代からみられる地名です（『泉南市史』）。

210402　御釈迦さんの掛け軸
由来する場所　信達葛畑
年代　江戸時代末から明治時代か

なぜ宝物？ 御釈迦さんを題材にした絵で、山中での修行を終えて里へおりてきたときの姿を描いたもの。持ち主の家にずっとあったものです。前々から気になる掛軸だったので、「誰がいつごろ描いたのか」図書館などで調べたりしたとのこと。せっかく代々伝わるものだからと、表装も済ませたそうです。専門家によると、「詳しいことはわからないが、おそらく明治時代前後に描かれたもの」だとか。「題材が珍しく、とても丁寧に描かれているので大切に保管しては」とのことです。

191601　お雛さんの掛け軸
押し絵の雛人形を差し込む掛け軸
由来する地区　岡田
年代　明治20年代ごろに入手

なぜ宝物？ 金屏風などの背景が描かれた掛け軸に、押絵を貼り付けた珍しいお雛さん。明治時代、持ち主の曾祖母が成人の祝いにもらってから、代々大切に受け継がれているもの。持ち主の家では、毎年この掛け軸を飾り家族写真を撮るのが恒例の行事。孫娘が子どもの頃は、娘と孫の雛人形も一緒に並べたそうで、それを目当てに訪れる親戚もあったとか。この掛け軸は、家族の集うきっかけであり、毎年撮られた写真とともにたくさんの思い出がつまっているそうです。

170413　すいか市の鈴　合図に使う鈴
由来する地区　男里　年代　昭和初期に使用

なぜ宝物？ 夏の夕暮れ時、家々に「すいか市」の開催を知らせてまわる鈴。すいか市とは、各農家が地区の人々にせり売りするもので、昭和初期まで行われていました。持ち主は、この鈴の涼しげな音色を聞くと、子どもの頃の思い出やむかしの風景を思い出すそうで、今まで大切に残しているものです。

201701　ピアノピース　楽譜（クラシック・ピアノ用）
由来する地区　信達市場
年代　昭和8年以降発行のもの。昭和10年代以降現在まで使用

なぜ宝物？ ピアノピースとは、ピアノの楽譜のこと。持ち主が子どもの頃に使っていたものです。人生の大半を音楽とともに暮らしてきた持ち主。「音楽から大事なことをたくさん教わった」そうです。まずは基本の大切さ。音楽では何よりも楽譜を「きちんと読める」ことが欠かせないそうです。基本をマスターしていないと「必ず頭打ちする」からです。次に心をこめること。子どもの頃からピアノを「心で弾くこと」で、多くの機会を得たそうです。そして何よりも楽しいと思えること。厳しい指導が当たり前の世界で、声楽の先生だけは別格だったとか。世間話などを織り交ぜながらの楽しく的確なレッスンはとても新鮮で、次のレッスンをいつも楽しみにしていたそうです。

170501 砂川音頭・砂川おどりのレコード　むかしの盆踊りのレコード
由来する地区　信達大苗代・市場・牧野・岡中・金熊寺・六尾・童子畑・葛畑・楠畑
年代　昭和27年ごろに創作

なぜ宝物？ 信達町誕生を契機に、住民が作った地域の特色ある歌と踊り。持ち主の母が発起人。当時、盆踊りで踊られていた山野音頭（三夜おどり）にかわる新しいものをつくろうと、町内の名所旧跡を歌いこんだもの。

170504　山野音頭の振付
盆踊りの振り付け
由来する地区　信達牧野
年代　近・現代に伝わる振付

170502　砂川音頭・砂川おどりの振付
盆踊りの振り付け
由来する地区・年代とも同上

170503　山野音頭の録音テープ
伝統ある盆踊りの録音テープ
由来する地区　信達牧野
年代　明治生まれの方による演奏（昭和56年録音）

なぜ宝物？ 信達地区の盆踊りは山野音頭（三夜踊り）と呼ばれる地域性のあるものでした。このテープは、持ち主がすたれゆく伝統的な山野音頭を記録し後世へ伝える必要性を強く感じ、録音したもの。演者はいずれも明治生まれの方で、毎年やぐらの上で歌い演奏していた人達です。

211601　リードオルガン
由来する地区　鳴滝
年代　大正年間後期に製造か

なぜ宝物？ 保証書には「大正」、「山葉オルガン8号形」とあります。そもそもは、持ち主の友人が母に買ってもらったもの。苦労して教員になった「負けず嫌いの母」が、「せめて娘には持たせてやりたい」と昭和41年に中古で購入したもの。保育士の資格取得のために幼い子どもをあやしながら「オルガンの猛特訓をした」ことなど、たくさんの思い出がつまったオルガン。昨年末にこのオルガンを譲ってもらった持ち主。「毎月の歌の練習会で大活躍」しているとのこと。何より気に入っているのはその音色。曲調にとてもあう音色だからです。元の持ち主である友人も「ここなら安心。大事に使ってくれる」と大喜び。なにより、「皆さんで楽しんで使ってくれるのがうれしい」そうです。

昔話

170203　はちかはたのいいつたえ
市内のむかし話
由来する地区　信達楠畑・童子畑・葛畑
年代　安土桃山時代のできごと
なぜ宝物？ 織田信長や豊臣秀吉と対抗した根来寺の僧兵たち。大坂方面から攻めてくる織田・豊臣方を意識して、峠沿いの村々に、僧兵を配置したという言い伝えがあります。根来寺に協力したのは八ヶ所の村々。それぞれの村に「畑」が付くことから「はちかはた」といわれたそうです。ここ泉南では、風吹峠沿いの堀河（畑）、葛畑、童子畑、楠畑がそれにあたります。

170204　右門吉のいいつたえ
市内のむかし話
由来する地区　信達葛畑
年代　延享三（1746）年頃のできごと
なぜ宝物？ 葛畑の住人で、藤原右門太郎ともいい、江戸時代に紀州との境界争いで命を落としました。紀州藩役人と山地境界の話し合いをした際、境界をめぐって一歩も引かなかったことから、その場で交渉相手の役人に竹槍でつかれ命を落としたそうです。相手が紀州藩士であっても、臆することのなかった右門吉の言い伝えはいまも語り継がれています。

170201　お菊のいいつたえ
市内のむかし話
由来する地区　新家
年代　慶長20（1615）年頃のできごと
なぜ宝物？ 慶長20（1615）年、大坂夏の陣のとき。紀州から、泉南の山々を越え、大坂城内へ密書を運んだお菊。散策ポイントとして親しまれる「お菊松」は、お菊が敵の目を欺くために、男装したといわれる場所。物語の主人公、お菊は豊臣秀次の娘。「この話を後世に伝えてほしい」。情報を提供していただいた方のつよい願いです。

結婚

211706　披露宴のおしながき
由来する地区　樽井
年代　昭和15年
なぜ宝物？ 持ち主の両親のもの。70年前にもかかわらず、マスカットなど今と同じものがあるほか、折詰のボリュームにびっくり。披露宴が行われたのは「本宅」。時代が感じられます。

200522　婚礼の袱紗
代々伝わるもの
由来する地区　樽井　年代　江戸時代か
なぜ宝物？ 絹地に金糸銀糸もつかった見事な刺繍。大きいもの（写真左）は嫁入りのとき長持にかけるもので、小さいもの（写真右）は結納のときに用いるとのことです。

スポーツ

211003　ベルリンオリンピック金メダリストの副賞のレプリカ
由来する地区　韓国
年代　20年ほど前に入手
なぜ宝物？ 1939年に開催されたベルリンオリンピックの金メダリストに贈られたもののレプリカです。男子マラソンの金メダリスト、孫基禎さんのものをもとに作られたものです。当時「日本人」として出場し、大会規定の制約から50年後に授与されたもの。現在は韓国の国宝に指定され、国立中央博物館に寄贈されています。持ち主は孫さんと旧知の仲。孫さんが来日するときは「かならず連絡してくれた」間柄だとのこと。知り合ったきっかけは共通の知人がいたから。知人の事務所を訪れた際、たまたま出くわしたそうです。このレプリカはその知人から譲ってもらったもので、持ち主宅では「オリンピックイヤーになると展示する」そうです。

181101　明治時代の軍人手帳
地区で珍しかった海軍での記録
由来する地区　樽井　年代　明治30年代
なぜ宝物？ 持ち主の祖父が、海軍にいた頃のもの。乗船した艦船の名前や寄港地などが記録されています。持ち主にとって祖父は「まじめ一本」な人。その祖父にならい、持ち主もがんばってきたとのこと。当時地元でもめずらしかった海軍での記録は、「まじめ一本」だった祖父を思いおこす大事な記録だそうです。

戦争

191201　大正時代の海軍の記録
第一次大戦当時の参戦日誌など
由来する地区　男里
年代　大正時代
なぜ宝物？ 持ち主の父の遺品。が亡くなってから偶然見つけたもので、くわしい由来については誰も知らないものばかり。父が海軍にいた頃の話をすることがなかったためです。『航海筆記』と題したノートには、大正3年から乗船した軍艦「千代田」での業務などが絵入りでびっしりと書かれています。

180704　陸軍少年通信兵学校のベルト
旧日本軍のベルト
由来する地区　男里
年代　太平洋戦争時のもの

170420　図嚢
旧日本軍の将校用カバン
由来する地区　男里
年代　昭和20年に入手

170419　手套
旧日本軍の手袋
由来する地区　男里
年代　昭和18年に支給

170423　磁石
旧日本軍の方位磁石
由来する地区　男里
年代　昭和18年に支給

170416　陸軍の夏服
旧日本軍の夏服上着
由来する地区　男里
年代　昭和18年に支給

170417　陸軍の冬服
旧日本軍の冬服上着
由来する地区　男里
年代　昭和18年に支給

170424　帯革
旧日本軍のベルト
由来する地区　男里
年代　昭和18年に支給

170418　体操靴
旧日本軍の訓練用体操靴
由来する地区　男里
年代　昭和18年に支給

170421　懐中電灯
旧日本軍の懐中電灯
由来する地区　男里
年代　昭和18年に支給

170422　水筒
旧日本軍の水筒
由来する地区　男里
年代　昭和18年に支給

なぜ宝物？ 持ち主が太平洋戦争のときに、陸軍に入隊していたときのもの。軍隊での経験談や「いまとはまったく違う世の中だった」当時の出来事を語る持ち主にとって、ひとつひとつが当時を物語る大事な記録です。

181201　図嚢（ずのう）
太平洋戦争時の陸軍下士官の携帯品
由来する地区　市外
年代　昭和 18 年から昭和 20 年

181205　兵役時の記憶
太平洋戦争時、陸軍通信隊としての 4 年間の体験
由来する地区　市外
年代　昭和 17 年から昭和 20 年

なぜ宝物？ 陸軍に入隊していたときのもの。「本土防衛」のため駐屯した鹿島灘（かしまなだ）での話や、終戦後の米軍への兵器引渡し作業など話はつきません。

181204　除隊時の寄せ書き
部隊解散のときのもの
由来する地区　市外
年代　昭和 20 年

181202　軍人手帳
太平洋戦争時の陸軍のもの
由来する地区　市外
年代　昭和 17 年から昭和 20 年

181203　兵役時の手帳
入隊後の軍隊教育でとったメモ
由来する地区　市外
年代　昭和 17 年

181002　岡田地区での戦争の記憶
防空壕への非難や、艦載機による空襲など
由来する地区　岡田
年代　太平洋戦争当時

なぜ宝物？ 自宅に掘った防空壕で聞いた終戦を告げるラジオ放送、岡田地区における艦載機の被害や、墜落した B29 の話など、当時子どもながらに強烈に記憶しているそうです。

181102　戦時中の松脂集めの記憶
樽井地区での松脂集めの様子
由来する地区　樽井
年代　昭和 18・19 年の記憶

なぜ宝物？ 燃料増産のため行われた松脂集め。小学生だった頃、樽井の浜辺や長山丘陵の松林で、松に「V」字の切れ込みをいれ、学年単位で集めたそうです。戦争中は「校門をくぐった覚えがあまりない」そうです。

211101　ゲートル
由来する場所　岡田
年代　太平洋戦の時に使用

なぜ宝物？ 親戚から譲り受けたもので、最近まで使用していたもの。子どもながらに戦争当時をよく知る持ち主が、今も大切にしているもののひとつです。「これを巻くとなんぼでも歩ける」という持ち主。戦後、大峰山に行くときの必需品だったそうです。戦没者慰霊祭には欠かさず出席する持ち主。当時の遺品を多くの人に見て知ってもらうことが「なによりの供養になる」と教えてくれました。ゲートルの巻き方：足首で 2 回まき、次の 2 回は前で折り返し。残りを巻き上げ、最後にひもで結ぶ。ゲートルのなおし方巻き取ったあと、地面で転がすときつくしまる。

190204　ゲートル
巻脚絆
由来する地区　信達市場（しんだち）
年代　昭和 10 年代末に使用

なぜ宝物？ 父が足に巻く姿を覚えているそうです。布地がとてもしっかりしており、とても 60 年以上前のものとは思えません。

200701　おじたちの遺品
勲章・勲記、従軍記章など
由来する地区　岡田
年代　昭和 10 年代から昭和 40 年代

なぜ宝物？ いずれも太平洋戦争に出征した、持ち主のおじたちのもの。そもそも、これらの遺品を大切に保管していたのは赤井ヨシエさん。持ち主のおばで、勲章を受けたおじたちのきょうだいにあたる方です。ヨシエさんは「きょうだいの供養をかかさなかった人」。墓参りにいくのも大変だろうと思い、持ち主夫妻が「車で送ろうか」と声をかけても、決して車に乗ろうとはしなかったとか。「戦争で亡くなった人の墓に参るのだから、車では行けない」と、必ず自分の足で墓に向かったそうです。勲章の箱をよく見ると汚れが目立ちます。持ち主は汚れた箱を見て「箱をあけては毎晩眺め、きょうだいのことを思い出していたのかも」と思ったとのこと。持ち主夫妻が、これらの遺品を預かったきっかけは、ヨシエさんが亡くなったため。「だれかが大事に持ってないと、おじたちがうかばれない」という気持ちから引き取りました。「当時は、皆が志願しろと言われた時代。皆が勢いで兵隊になった。でもその人たちは皆死んでしまった」と持ち主は教えてくれました。

210910　祖父の軍人手帳と勲章
由来する地区　信達葛畑（つづらばた）
年代　明治 35 年から 38 年

信仰

170202　げんろくさん
氏神さんの祠
由来する地区　信達葛畑　年代　宝暦（ほうれき）二（1752）年

なぜ宝物？ 静かな竹林の斜面に、ひっそりとたたずんでいます。堀河地区の人に氏神さんのひとつとして親しまれている「宮さん」で、通称「げんろくさん」。正月にはお参りに、毎年 2 月には餅まきをするそうです。石灯籠には「宝暦二（1752）年…」の年号のほか、持ち主の先祖の名前が刻まれています。

180103　和泉砂岩の鍾馗（しょうき）さん

お守り

由来のある地区　男里（おのさと）

年代　不明（江戸時代か）

なぜ宝物？ 鍾馗さんとは、もともと疫病を防ぐ鬼神。今から1300年ほど前の中国で、病床の玄宗皇帝の夢枕に現れ疫病をはらったことに由来します。日本では厄除けのお守りとして、古い民家でみることができます。よく見かけるのは瓦と同じ材質ですが、この鍾馗さんは和泉砂岩製。持ち主の家を今も守っています。

180104　おかげ参りのお社

お伊勢参りの御幣をまつった祠

由来する地区　男里

年代　江戸時代以降に建立

なぜ宝物？ おかげ参りとは、江戸時代に民衆の間で盛んだった「伊勢詣」のこと。持ち主の自宅にあるもので、言い伝えによると、江戸時代に持ち主宅に「御幣」がおりたのがきっかけで、それ以来お祀りしているのこと。当時この地区に数軒の家に「御幣」がおりたそうで、それらの家々では、「御幣」をお祀りし、おかげ参りの集団がくると、食事を出したり宿として自宅を提供したりしたそうです。

200519　土蔵の御幣（ごへい）

土蔵の上棟幣

由来する地区　樽井　年代　明治42年

なぜ宝物？ 持ち主の土蔵に大事に保管されているもの。子どもの背丈ほどもあるおおきな御幣で、この土蔵の上棟式のときにたてた御幣。そのうちのひとつには「明治42年11月15日」と記されています。

202204　煉瓦のお社

氏神さんの祠

由来する地区　中小路（なこうじ）

年代　不明（創業当時からか）

なぜ宝物？ 三和煉瓦製造所の「お稲荷さん」。台座と参堂に煉瓦が使われています。台座は自社製の赤煉瓦を、参道には以前工場で活躍していた「輪環窯（りんかんがま）（ホフマン窯）」で用いられたものをそれぞれ使っているとのことです。

200523　江戸時代の打敷（うちしき）と戸帖（とちょう）

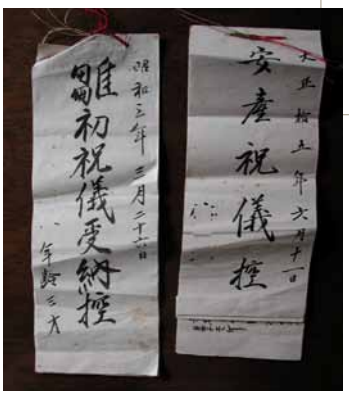
自宅の仏壇に正月と盆のみに使う

由来する地区　樽井

年代　江戸時代か

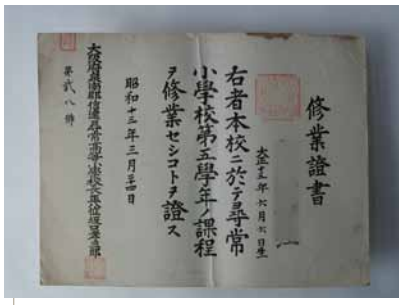
なぜ宝物？ 持ち主の家に代々伝わるもの。刺繍も色鮮やか。打敷を入れる木箱には「嘉永（かえい）四年」と墨書きされています。

儀式や習慣



170214　大正 15 年の安産祝儀控
祝儀の受領簿
由来する地区　信達市場（しんだち）
年代　大正 15 年の記録

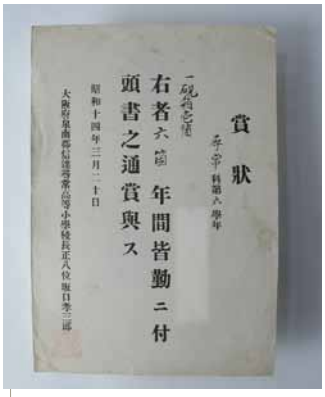
170215　昭和 3 年の初雛祝儀受納控
祝儀の受領簿
由来する地区　信達市場
年代　昭和 3 年の記録



170212　信達尋常高等小学校の修業証書
尋常高等小学校の修学証書
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期発行

教育

170209　信達尋常高等小学校の通信簿
尋常高等小学校の通信簿
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期発行

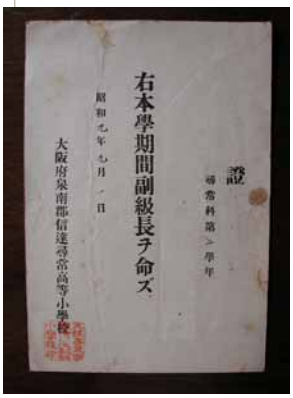


170226　信達尋常高等小学校の賞状皆勤賞状
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期発行

210623　明治時代の教科書など
由来する地区　樽井
年代　江戸時代以降

なぜ宝物？ 持ち主の祖父をはじめ、4 代にわたり教員を務めた家。物置で見つけた時、明治時代頃からのたくさんの教科書などが入っていたそうです。というのも祖父をはじめ皆が「勉強熱心」だったため。本が貴重な時代だったことがわかります。

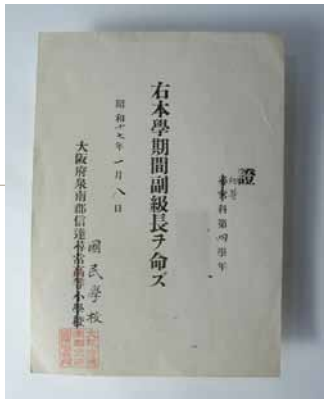
170211　信達尋常高等小学校の級長任命書
尋常高等小学校の級長任命書
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期発行



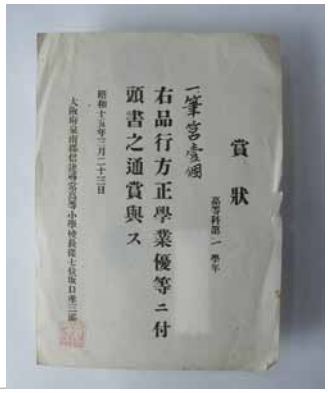
なぜ宝物？ 昭和初期、いまの小学校にあたるのが尋常小学校でした。信達町当時の場合、義務教育にあたる尋常小学校と、2 年制の高等小学校が併設されていました。当時、級長や副級長は先生からの指名制。選ばれることは優等生の証でした。

170227　信達尋常高等小学校の賞状精勤賞状
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期発行

170308　尋常高等小学校から国民学校に
国民学校の副級長任命証
由来する地区　信達市場
年代　昭和 17 年に発行



なぜ宝物？ いずれも現在の小学校にあたります。ただ、当時は太平洋戦争中。なぎなたの授業など世相を反映する教科があったそうです。



170228　信達尋常高等小学校の賞状　品行方正学業優等賞状　由来する地区　信達市場　年代　昭和初期発行

170213　岸和田高等女学校の委員任命書
高等女学校の委員任命書
由来する地区　信達市場
年代　昭和初期発行

なぜ宝物？ 高等女学校とは、尋常小学校卒業後に入学することができ、4 ～ 5 年制でした。現在の泉南市内の住人は岸和田高等女学校（現在の府立和泉高校）へ入学していました。

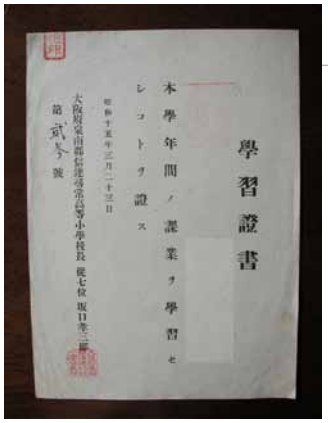
190907　大正時代の通信簿など

通信簿、卒業証書、賞状など

由来する地区　信達牧野

年代　大正時代に発行

なぜ宝物？ 納屋にあるのを偶然見つけたもの。持ち主の父のものです。

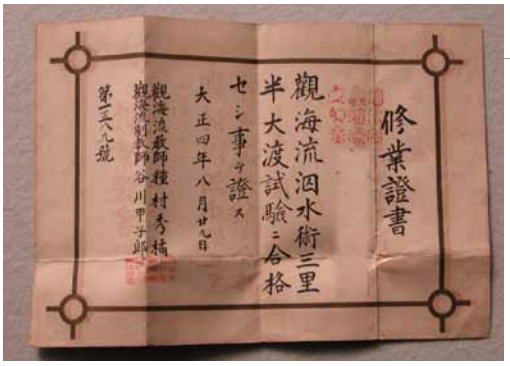


170210　信達尋常高等小学校の学習証書

尋常高等小学校の修学証書

由来する地区　信達市場

年代　昭和初期発行

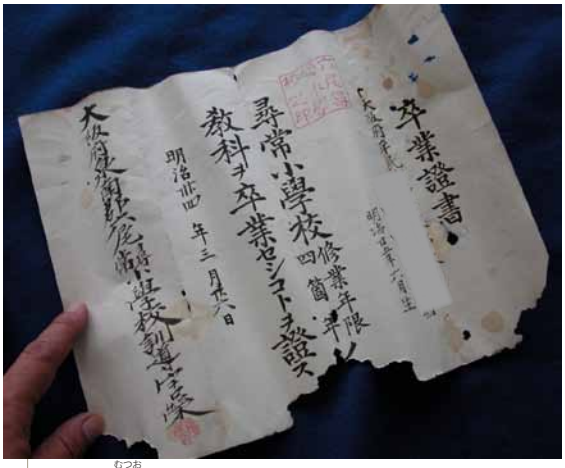


200524　観海流泅水術（かんかいりゅうしゅうすいじゅつ）の修業證書

賞状

由来する地区　樽井　年代　大正４年発行

なぜ宝物？ 岸和田中学校卒業した持ち主の父のもの。「むかしの岸中（きしちゅう）は夏になると海で水泳の授業ばかりだった」と「岸中」の卒業生である持ち主が教えてくれました。ちなみに観海流とは古式泳法のひとつ。江戸時代に三重県で発祥しました。旧制中学では水泳の授業に採用する学校がおおかったそうです。



210909　六尾（むつお）尋常小学校の卒業証書

由来する地区　信達葛畑（つづらばた）

年代　明治 34 年発行

210803　西信達尋常高等小学校の成績表

由来する地区　岡田

年代　昭和７・９年発行

なぜ宝物？ 尋常科２年と高等科２年の成績表。大正 15 年生まれの持ち主が、若い人にぜひとも見てほしいと応募してくれたもの。「軍国主義を賛美しているんではないんやで」とことわった上で「校訓などをいちど読んでほしい」とのことです。

みなさんがお持ちの「せんなんのたからもの」を募集しています

■せんなんのたからものとは？■

泉南市に関係するもので

持ち主が大切だと思い

活用したいとつよく思うもの

■応募にあたって■

持ち主の方からの応募が必要です

■応募・問合せ■

泉南市埋蔵文化財センター

590-0505 泉南市信達大苗代 374-4

電話 072-483-6789

メールアドレス maibun@city.sennan.lg.jp

■たとえばこんなものです■

- 民家などの建造物
- 工芸品
- 植物や動物
- 衣食住に関わる伝統的な習慣
- 伝統的な衣服や道具
- むかしから伝わる踊りや音楽
- むかしばなしなどの記憶
- 地域の特産品などの作り方などの知識
- 地域の歴史などの知識
- ふるい写真や映像など

LION-GO